

皇居のクモ類

小野 展嗣

国立科学博物館動物研究部 〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

E-mail: ono @ kahaku. go. jp

Spiders (Arachnida, Araneae) recorded from the Imperial Palace, Tokyo

Hirotsugu Ono

Department of Zoology, National Museum of Nature and Science,

4-1-1, Amakubo, Tsukuba-shi, Ibaraki, 305-0005 Japan

E-mail: ono @ kahaku. go. jp

Abstract. Koukyo, the Imperial Palace of Japan, is situated in the center of Tokyo Metropolis, adjoining Tokyo Station in Chiyoda Ward. The ground was the former residential palace of the successive Tokugawa Shoguns in the Edo Period and entirely urbanized since long. Following Meiji Restoration in 1868, Emperor Meiji moved here from Kyoto, which had been the imperial capital for more than a thousand years. Since then the Imperial Residence where Their Majesties the Emperor and Empress reside, Imperial Palace where the various ceremonies and functions are held, and the Imperial Household Agency Buildings are located there. The whole site covers an area of 1,150,000 square meters with wonderful forests and gardens made by supreme landscape gardeners and have been kept in nature for about 100 years. Thus, the site of Palace is one of the largest, urban green space conservation areas in the center of Tokyo, which can compare with Meiji Jingu Shinto Shrine (Ono, 2013) and Shirogane Garden of the Institute of Nature Study (Shinkai & Ono, 2001). From forests and gardens of the Imperial Palace, 165 species of spiders became known through investigations of faunal researches made by the National Museum of Nature and Science in the years 1996–2005 (Ono, 2000, 2006). A renewal inventory project for spiders of the Imperial Palace has been carried out by the national museum from 2009 through 2013. About 3,800 individuals of spiders were collected from various places in the site with sweeping, beating, sifting, Malaise trapping and other possible methods as well as with hand collecting. After identification of these specimens and review of preceding records, 191 species of 36 families have been recognized from the Imperial Palace. Of these, seven species are designated as those with preservation importance in red lists of threatened species in Japan and / or in Tokyo (23 Wards and Tama Area version): *Antrodiaetus roretzi* (Antrodiaetidae), *Latouchia typica* (Ctenizidae), *Falcileptoneta japonica* (Leptonetidae), *Doosia japonica* (Zodariidae), *Argiope amoena* (Araneidae), *Xysticus transversomaculatus* and *Xysticus trizonatus* (both Thomisidae). Discovery of a rare species in Tokyo, *Cyrtophora ikomosanensis* (Araneidae) and an unknown and possibly new species of the genus *Helicius* (Salticidae) also deserve to make a special mention. Spider fauna of the Palace is rich in the total number of species as an isolated green area in a large city, although core members are made of species, which are tough for environmental change and have wide range of food and high ability of dispersion by ballooning. For conservation of sustainable ecosystem around spiders grass cutting may be avoidable without spoiling cityscape, and biotope friendly for spiders should be increased with improvement of ponds and streams to make marshy ground and making meadow and natural green with herbs with flowers attracting insects.

Key words: Landscape-architecture, urban-ecology, Tokyo, Araneae

はじめに

皇居のクモ類の総合的な記録は、平成8年(1996)から12年(2000)にかけて行われた国立科学博物館による「皇居の生物相調査第1期」(インベントリー研究)の成果を筆者が報告した論文(小野, 2000)が最初である。その中で筆者は、調査で得られた約4,400個体の標本を同定するとともに、青木ほか(1976)や新海(1977)による記録や、昭和62~63年(1987~1988)に実施された濠の水生昆虫等の調査において得られた標本の記録(小野, 1988)などを整理し、145種のクモ類を皇居から報告した。

その後、平成13年(2001)から17年(2005)に行われたモニタリング調査においては、採取された約1,800個体の標本を117種に同定し、皇居のクモ類相に新たに20種を追加するとともに、平行して調査を行ってきた赤坂御用地、常盤松御用邸、港区白金の国立科学博物館附属自然教育園などの記録との比較検討にもとづき、皇居のもつ東京都心における広域緑地としての特性を生態学的に考察して「クモに優しいビオトープづくり」を提言した(小野, 2006)。

今般、平成21年(2009)から25年(2013)にかけて「皇居の生物相調査第II期」が実施され、筆者は再びクモ類の調査を担当する機会に恵まれたので、その研究結果をここに報告する。今期の調査では、とくに生息が予想されながら記録のない種の発見に重点を置くとともに、15年間のクモ相の変化にもある程度気を配った。それでもなお、明治神宮や白金自然教育園など都区内のほかの緑地で見つかっている種で皇居では確認できなかったものがある。今後の調査に期したいと思う。

調査の概要および研究方法

1. 主な調査場所とその環境(植生については近田ほか(2000)を参考にした):

1) 吹上大宮御所正門~覆馬場跡[常緑・落葉樹(スダジイ, タブノキ, イイギリ, モチノキなど), 下草(クマザサ)]

2) 吹上御苑観瀑亭および観瀑亭流れ周辺(図3)[常緑・落葉樹(クヌギ, ヤマザクラ, クロマツなど多種), 低木の植え込み, 下草(クマザサ), 流れ周辺の草本類, 木造建造物]

3) 吹上御苑白鳥堀~大本営跡[常緑・落葉樹(ヒノキ, クヌギ, イロハモミジ, ヤマザクラなど多種), 低木の植え込み, 下草(クマザサ), 水

辺の草地]

4) 吹上御苑果樹園(梅林)~寒香亭[クヌギ, 果樹(ウメ, ユズ), 明るい草地, 木造建造物]

5) 吹上大宮御所周辺[常緑・落葉樹(スダジイ, トウカエデ, ケヤキなど), プール周辺, 鉄筋・木造建造物の壁面]

6) 下道灌濠周辺, 道灌新道(図2)[水辺の低木, 紅葉山斜面の草地, 石垣, コンクリート塀]

7) 中道灌濠周辺(図1)[常緑・落葉樹林(タブノキ, シロダモ, イロハモミジ), 水生植物, 草地]

8) 大道庭園[バラなどの園芸植物, 盆栽, 植え込み, 建造物壁面]

9) 生物学研究所周辺[水田, 桑畑, 植え込み, パナナ温室, 建造物壁面]

2. 調査日および調査者:

- 1) 平成21年(2009)7月6日(月) 小野展嗣
- 2) 平成21年(2009)7月29日(水) 小野展嗣
- 3) 平成21年(2009)9月18日(金) 小野展嗣
- 4) 平成22年(2010)5月11日(火) 小野展嗣・工藤泰恵
- 5) 平成22年(2010)9月21日(火) 小野展嗣
- 6) 平成23年(2011)6月2日(木) 小野展嗣・初芝涼
- 7) 平成23年(2011)7月14日(木) 小野展嗣・初芝涼
- 8) 平成23年(2011)7月19日(火) 小野展嗣
- 9) 平成23年(2011)7月28日(木) 小野展嗣・初芝涼
- 10) 平成23年(2011)8月4日(木) 小野展嗣・水山栄子・初芝涼
- 11) 平成23年(2011)10月28日(金) 小野展嗣・水山栄子
- 12) 平成23年(2011)11月11日(金) 小野展嗣・水山栄子
- 13) 平成24年(2012)2月29日(水) 小野展嗣・渡邊芳美・水山栄子
- 14) 平成24年(2012)4月17日(火) 小野展嗣・渡邊芳美・水山栄子
- 15) 平成24年(2012)6月12日(火) 小野展嗣・渡邊芳美・水山栄子
- 16) 平成24年(2012)7月25日(水) 小野展嗣・水山栄子
- 17) 平成24年(2012)8月21日(火) 小野展嗣・渡邊芳美・水山栄子
- 18) 平成25年(2013)2月27日(水) 小野展嗣・渡邊芳美・水山栄子



図1-6. 1-3, 主な調査地. --- 1 (左上), 中道灌濠東側 (2012年4月); 2 (右上), 道灌新道~下道灌濠 (2009年7月); 3 (左中), 吹上御苑, 観瀑亭周辺 (観瀑亭流れ, マレーズトラップ, 2011年5月). --- 4 (右中), コガネグモ *Argiope amoena*, ♀成虫, コフキコガネを捕食, 下道灌濠東側 (2012年7月) [体長約25 mm]. --- 5-6, スズミグモ *Cyrtophora ikomosanensis*. --- 5 (左下), 傘状の網, 吹上御苑大灌口周辺 (2009年7月) [直径約50 cm]; 6 (右下), 同, ♀成虫 (背面) [体長約15 mm].

3. 調査方法：以下の方法を併用した。

- 1) 見つけ採り：植物上，樹間，地面の落葉層，石や倒木の下，建造物の外壁など
- 2) すくい捕り法（スウィーピング）：草本，低木
- 3) たたき落とし法（ビーティング）：樹枝（3 m 以下の低い位置）
- 4) 篩取り法（シフティング）：落葉層（主に樹林の林床）

採集したクモ類は現地で直ちに76%エチルアルコール溶液に浸けて固定し，研究室へ持ち帰って同定した。ただし，個体数が多い，いわゆる「普通種」については目視による確認にとどめたものがある。

4. 他の研究者から提供を受けた標本の同定：

- 1) マレーズトラップによる捕獲（詳細は本誌神保ほかを参照）

調査場所および実施期間：吹上御苑：果樹園（2009年6月2日から1年間）および観瀑亭流れ左岸（2010年9月14日から1年間）；道灌新道（2009年9月10日から1年間）；生物学後研究所田圃（2010年6月1日から1年間）

提供者：大和田守

- 2) ツルグレン装置による大型土壌動物の抽出
調査場所：吹上御苑（地主山および駐春閣跡）
調査日：定量調査（2009年10月23日から2010年10月15日の間各月1回）；定性調査（2010年12月17日，2011年6月17日，9月16日，10月21日，2012年2012年2月17日）

提供者：石井清，坂寄廣

- 3) オオタカの巢中より得られた標本

調査場所：生物学後研究所周辺（クスノキ）

調査日：2013年7月8日

提供者：西海功

以上により研究材料となったクモの総数は合計約3,800個体にのぼった。それらの標本は，国立科学博物館動物研究部（筑波研究施設）の小野研究室において分類学的に研究し，工藤，初芝，水山，小野により種レベルまで同定した。ただし，初齢期の幼虫や損傷を受けた標本のために種まで同定できなかったものも数多い。今期の調査で得られた知見に従来の記録を修正して加え，平成25年（2013）9月時点でのインベントリー・リストを作成した。

なお，標本はすべて国立科学博物館動物研究部において保管する。

結 果

従来の調査結果に今期の調査結果を加え整理したところ，以下の目録の通り皇居から36科191種の生息を確認した。分類体系や目録中の学名および和名は，概ね『日本産クモ類』（小野，2009；東海大学出版会）に従ったが，一部は図鑑刊行後に公表された分類学的検討結果に基づいて変更したものもある。

それぞれの種については，適宜コメントを付し，必要に応じて生態学的な特性やレッドデータにおける重要度，東京都区部の緑地における生息状況や保全の観点からの評価などを記した。また，注目すべき種についてはとくに詳しく解説した。今回，皇居から初めて記録した種には学名の右肩に*印を付した。なお，採集データは広範囲に生息していて個体数も多い，いわゆる普通種については省略した。

皇居のクモ類目録

クモ目 Araneae

クモ亜目 Opithothelae

トタテグモ下目 Mygalomorphae

ジグモ科 Atypidae

1. ジグモ *Atypus karschii* Dönitz, 1887

体長雌12~20 mm，雄10~15 mm。背甲および歩脚は黒褐色で，腹部は淡褐色または紫褐色。上顎が強大で前方に突き出る。地中に糸で管状の住居（巣）を作り，その先端部を樹木の根元部分や壁面に付着させる。全国の平地~低山地に分布し（北海道では稀），東京都区部のほぼ全域から記録があり東京オリンピックが開催された1960年代半ば頃までは市街地から里山にかけてごく普通に見られたが，都市化が進んだことで個体数が減っている。東京都島嶼部（伊豆諸島）では DD（情報不足）というカテゴリーでレッドリスト（保護上重要な野生生物種）に登載されている。道路の舗装，建物の鉄筋化，生け垣のブロック塀化，下水溝の整備などによる造巣環境や餌条件の

悪化が原因として考えられるが、本種の生息環境としては申し分のない皇居でも個体数は非常に少なく、採集されたのは生物学研究所の周辺だけである(小野, 2006 b)。今期の調査では確認できなかった。

カネコトタテグモ科 Antrodiaetidae

2. カネコトタテグモ *Antrodiaetus roretzi* (L. Koch, 1878)

体長雌雄10~15 mm。雌雄とも背甲および歩脚は黒褐色で、腹部は淡紫褐色で斑紋を欠く。地中に管状の住居を作り、入口の両縁はせり出して、両開きの戸のような蓋を形成する。住居は比較的深く(10cm以上)、壁は細かい糸で裏打ちされている。本州に分布する。第I期の調査でわずかの個体が得られているが、その後発見されていない。環境省のレッドリスト(2012)および東京都のレッドリスト(本土部2010; 島しょ部2011)にそれぞれ準絶滅危惧種(NT)[区部では絶滅危惧II類(VU)]として掲載されている。皇居以外では杉並区(梅林, 2003)から記録されている。

トタテグモ科 Ctenizidae

3. キシノウエトタテグモ *Latouchia typica* (Kishida, 1913)

体長雌雄13~20 mm, 雄10~14 mm。雌雄とも背甲は黒褐色で、歩脚の腿節は黒く、それ以外の節は赤褐色。腹部は黒褐色または紫褐色で、白色の横条斑がはっきりしている個体と斑紋を欠く個体がある。上顎が強大で前方に突き出る。地中に管状の住居を作り、入口に開閉式の円形の蓋(trap door)を付ける。住居は比較的浅く(5~10cm程度)、壁は粗い糸で裏打ちされている。本州、四国、九州の平地~低山地に分布する。皇居には数多く生息している。巣の蓋が閉まっていると地面とまぎれて見つかりにくい、梅雨時にクモタケ(冬虫夏草)の子実体が蓋を開けて地上に出るので容易に生息を確認できる。春季に林床の落ち葉のシフティングを行うと体長2~3 mmの幼虫が多数採れることがある。また秋季に雄の成虫がしばしばマレーズトラップにかかる。本種の基準産地(type locality)である本郷の東京大学構内では建造物の増改築や庭園の整備などによる生息地の破壊が危惧されている。種の範囲については議論があり

(Ono, 2001; 小野, 2009)、近縁種との異同について遺伝子解析を含む検討が行われている。環境省のレッドリスト(2012)および東京都のレッドリスト(本土部2010; 島しょ部2011)にそれぞれ準絶滅危惧種(NT)[区部では絶滅危惧II類(VU)]として掲載されている。皇居には多数生息し、本種の貴重な生息地の一つである。採集データ:省略。

クモ下目 Araneomorphae

エンマグモ科 Segestriidae

4. ミヤグモ *Ariadna lateralis* Karsch, 1881

体長雌12~20 mm, 雄10~15 mm。6眼。雌雄とも全体に黒褐色あるいは紫褐色で腹部には斑紋がない。樹木の樹皮下や岩の裂け目、木造建造物の壁板の間などに目が細かく丈夫な糸のできた管状の住居を作る。住居の入口は開放型で、そこから放射状に受信糸を引く。本州、四国、九州に分布し、平地~低山地の樹林や市街地でも寺社や旧家の石垣や板塀の隙間などに造巣する。皇居では林内の樹木の樹皮下に見られ、個体数も多い。採集データ:省略。

タマゴグモ科 Oonopidae

5. アカハネグモ *Orchestina sanguinea* Oi, 1955

体長雌雄1.3~1.5 mm。6眼で中眼が大きい。雌雄とも生時は淡いピンク色だが標本にすると白色になる。樹木や草本上、石垣の間などに見られる。日本固有種で本州、九州に分布するが小さいので発見するのは難しい。第I期調査およびモニタリング調査では吹上御苑や中道灌濠の周辺で得られているが、第II期の調査では確認できなかった。

6. ナルトミダニグモ *Ischnothyreus narutomii* (Nakatsudi, 1942)

体長雌雄1.3~1.8 mm。6眼。雌雄とも生時は淡黄褐色で、腹部背面に硬化した卵形の板がある。土壌中に見られる。日本固有種で本州、四国、九州に局地的に分布する。三宅島が基準産地(タイプ・ロカリティー)のため、東京都島嶼部(伊豆諸島)ではDD(情報不足)というカテゴリーでレッドリスト(保護上重要な野生生物種)に登載されている。第I期調査においてわずかの個体が上道灌濠の周辺で採集されているが、第II期の調

査では確認できなかった。

7. ダニグモ *Gamasomorpha cataphracta* Karsch, 1881 *

体長雌雄2~3 mm. 6眼. 背甲は赤褐色ないし暗褐色, 腹部背面は全体が赤褐色の硬化した板で被われ, 後方に不明瞭な2本の淡色の横条がある. 林内の落葉層や倒木, 礫の下などに生活する. 本州, 四国, 九州, 南西諸島に産する. 都区部では稀で, 既知産地は港区白金の自然教育園のみであった.

採集データ: 1♀, 吹上御苑(観瀑亭流れ左岸), 26-IV~4-V-2011, マレーズトラップによる捕獲.

8. シャラクダニグモ *Opopaea syarakui* (Komatsu, 1967)

体長雌雄1.6~2.0 mm. 6眼. 全体が赤色ないし濃い橙色をした美しいクモで, 腹部背面は硬化した板で被われる. 日本固有種で本州南部, 四国, 九州に分布する. 網を張らず, 狩猟性で, 大木の樹皮下, 落葉層および下草上から採集される. 都区部では比較的記録は少ないが, 皇居のほか港区の赤坂御用地および白金自然教育園には確実に生息している. 採集データ: 省略.

ユウレイグモ科 Pholcidae

9. ユウレイグモ *Pholcus zichyi* Kulczy'nski, 1901 *

体長雌雄4~6 mm. 8眼. 背甲は円形で黄色く, 不規則な褐色斑がある. 腹部は円筒形で長く, 淡灰褐色. 歩脚が非常に細長く弱々しい感じのするクモで, 石垣の間や林内の樹木のうろ, 下草の間などの薄暗い場所にシート状の網を張る. 全国の平地~低山地に分布し, 里山環境では普通に見られるが, 市街地では稀である. 都区内では港区の自然教育園や渋谷区の明治神宮などから記録がある. 皇居では今回の調査で1個体が見つかったのみである.

採集データ: 1 juv., 23-X-2009, 吹上御苑(駐春閣跡), 石井清ほか採集(土壌動物調査).

10. シモングモ *Spermophora senoculata* (Dugès, 1836) *

体長雌雄2.0 mm 前後. 6眼. 体は全体に淡黄褐色あるいは黄白色. 腹部は球形で歩脚は細長い. 石垣の間や側溝の中, 家屋や塀の壁面, 納戸の中, 倉庫の積み荷の間などに小さい不規則網を張る.

人為分布により世界中の温帯~熱帯で見られる. 皇居での記録は以下の1例のみである.

採集データ: 1♀, 24-IX-2010, 2 juv., 15-X-2010, 吹上御苑(地主山), 石井清ほか採集(土壌動物調査).

マシラグモ科 Leptonetidae

11. ヤマトマシラグモ *Falcileptoneta japonica* (Simon, 1893)

体長雌雄1.6~1.7 mm. 6眼. 体は淡黄白色で, 腹部に不明瞭な暗色の横条がある. 歩脚が細長く弱々しい感じのするクモで, 地表の暗所にシート状の網を張る. 日本固有種で本州(関東地方)に分布する. 東京都本土部全体ではDD(情報不足)というカテゴリーでレッドリスト(保護上重要な野生生物種)に登載されているが, とくに区部ではVU(絶滅危惧II類)とされている. 皇居では第I期調査で多数が採集されているが, モニタリング調査および第II期の調査では生息を確認できなかった.

ヤマシログモ科 Scytodidae

12. ユカタヤマシログモ *Scytodes thoracica* (Latreille, 1802)

体長雌雄4~7 mm. 6眼. 体は淡黄褐色ないし淡灰色で, 背甲および腹部背面に黒褐色の複雑な斑紋がある. 夜間狩猟性で, 林内の暗所や人家の中などに生活する. ユーラシアおよび北米に広く分布し, 我が国では北海道, 本州, 四国, 九州に生息する. 第I期調査では観瀑亭で1♀が採集されているが, その後確認されていない.

チリグモ科 Oecobiidae

13. チリグモ *Oecobius navus* Blackwall, 1859 *

体長雌雄1.5~2.5 mm. 8眼で篩板を有する. 体は扁平, 全体に黄白色ないし淡いベイジュ色で, 黒色の斑紋がある. 人為分布により世界中の温帯および熱帯地域で見られ, 建造物の内外の壁面やブロック塀などに小さいテント状の網を張る. 皇居では建造物の調査をあまり実施していないが, 壁面などに多数の網が目撃されている.

採集データ: 1♀, 吹上御苑(寒香亭), 2-VI-2011, 初芝涼採集.

ハグモ科 Dictynidae

14. カレハグモ *Lathys annulata* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄2.0~2.5 mm. 8眼, 有篩板. 背甲は一様に黒褐色で, 腹部は淡褐色の地に暗色および白色の点斑がある. 土壌中の落葉の間や岩の窪みなどに小さいボロ網を張る. 日本固有種で北海道, 本州, 四国, 九州に広く生息するが, 市街地では稀.

第I期の調査では吹上御苑内で多数個体が採集されているが, 今回はまったく確認できなかった.

15. タイリクカレハグモ (新称) *Qiyunia lehtineni* Song et Xu, 1989* (図7-17)

体長雌雄1.4~1.9 mm. 有篩板で, 毛櫛は単純(図9, 11). 元来8眼だが, 前中眼がない個体が多く, 後中眼や後側眼が退化傾向を示す(図7, 13). 体は液浸標本では一様に白色だが, うっすらと斑紋

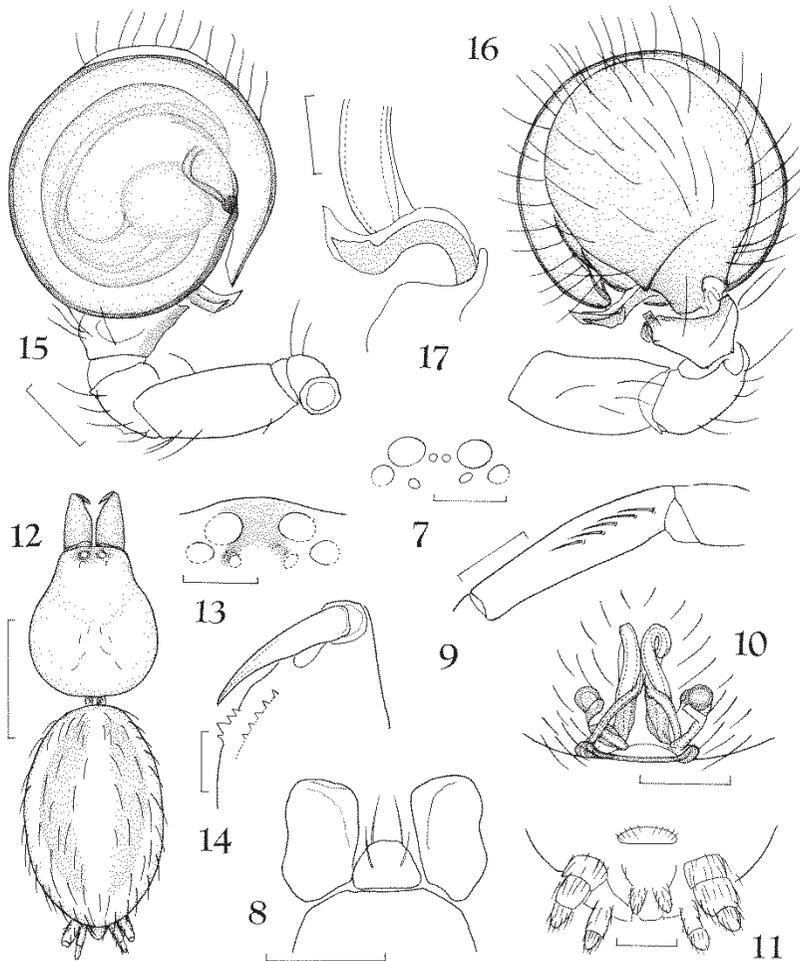


図7-17. タイリクカレハグモ *Qiyunia lehtineni*: 7-11, ♀成虫; 12-16, ♂成虫. --- 7, 眼域 (背面); 8, 下顎および下唇 (下面); 9, 第4歩脚跗節 (前側面); 10, 外雌器 (腹面); 11, 糸疣 (腹面); 12, 頭胸部および腹部 (背面); 13, 眼域 (背面); 14, 上顎 (下面); 15, 触肢 (下面); 16, 同 (背面); 17, 小杯葉 (前側面). [スケール: 7-11, 13, 15-16, 0.1 mm; 12, 0.5 mm; 14, 17, 0.05 mm.]

の形跡が残る個体もある(図12). 雄の触肢器官(図15-16)がひじょうに大きく円盤状を呈するのが大きい特徴である. 土壌中に生息するが, 生態はまったく不明. 雌成虫は1年中見られるが, 雄成虫が採集されているのは, 10月から翌年5月にかけての冬季~春季のみである. 本種は第I期およびモニタリング調査ではまったく採集されなかったもので, 今回, 多数個体が土壌動物の調査によって得られた(前種と入れ替わった感がある). 属種とも我が国からは記録のなかったものなので, 広く文献を探索したところ, 中国安徽省黄山市休寧県にある斉云山(標高800 m程度の低山地)から Song and Xu (1989) によって新属 *Qiyunia* (タイリクカレハグモ属; 新称) のもとに記載された種と同定された. 原産地の標本と比較した訳ではないので, 近縁の別種という可能性も考えられるが, 原記載からは確たる相違を見いだせなかった. 中国でも他の地方からの記録は今のところない模様で, そのような稀産種が皇居で見つかったことは興味深い. 今後は, 1) 中国からの人為的な移入, 2) もともと日本, 中国に自然分布していながら微小なため見つからなかった, の両方の視点から標本(DNAを含む)による比較検討を行う必要がある. 洞窟性でない種で眼が顕著な退化傾向を示すこともやや奇異に感じられる.

採集データ: 6♀, 3♂, 2 juv. ♀, 6 juv., 23-X-2009, 2♀, 1 juv., 20-XI-2009, 7♀, 4♂, 13 juv., 18-XII-2009, 3♀, 7 juv., 22-I-2010, 4♀, 11 juv., 19-II-2010, 1♀, 19-III-2010, 2♀, 2♂, 23-IV-2010, 11♀, 2♂, 18 juv., 21-V-2010, 3♀, 12 juv., 18-VI-2010, 6 juv., 23-VII-2010, 2♀, 17 juv., 20-VIII-2010, 28 juv., 24-IX-2010, 11♀, 5♂, 3 juv. ♀, 4 juv. ♂, 20 juv., 15-X-2010, 2♀, 8 juv., 17-XII-2010, 30 juv., 16-IX-2011, 11♀, 5 juv., 21-X-2011, 3♀, 1♂, 13 juv., 17-II-2012, 吹上御苑(地主山); 1♂, 23-X-2009, 1 juv., 20-XI-2009, 1♀, 3 juv., 20-VIII-2010, 3 juv., 24-IX-2010, 1♀, 3 juv., 15-X-2010, 8 juv., 16-IX-2011, 吹上御苑(駐春閣跡), 石井清ほか採集(土壌動物調査).

16. ネコハグモ *Dictyna felis* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄3~5 mm. 8眼, 有篩板. 背甲は一様に黒褐色, 腹部は灰色の地に白毛も密生し, 中央部に顕著な黒斑がある. 自然環境では樹木の葉上にボロ網を張るが, 市街地にも多く, ビルや公園のト

イレ等の外壁やブロック塀の隙間, 金属フェンスなど多様な場所に生息する. 全国に分布する普通種だが, 皇居では建物の外壁のみで見つかつていない. 採集データ: 省略.

17. ヒナハグモ *Dictyna foliicola* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄1.8~2.3 mm. 8眼, 有篩板. 背甲は一様に褐色, 腹部は淡灰褐色, 褐色, 赤色などの色彩変異がある. 低木や草本の葉上にボロ網を張る. 北海道, 本州, 四国, 九州の平地~低山地に分布し, 市街地の緑地や公園などでもよく見られ, 皇居でも数多く見られる. 採集データ: 省略.

ウズグモ科 Uloboridae

18. マネキグモ *Miagrammopes orientalis* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌6~15 mm, 雄4~6 mm. 4眼, 有篩板. 全体に黄色または灰色を帯びた褐色. 長方形で側方にくびれのある背甲, 強大な第1歩脚, 円筒形の腹部など特異な形態を有する. 樹木や丈の高い草の葉や枝の先から条網と呼ばれる糸(細いので肉眼では見にくい)を張り, 体を伸ばして獲物のクモを待つ. 本州, 四国, 九州, 南西諸島の平地から低山地にかけて生息し, 市街地でもよく見られる. 採集データ: 省略.

19. オウギグモ *Hyptiotes affinis* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄3~5 mm. 6眼, 有篩板. 前種同様特異な形態を有し, 頭部が高く, 眼域は背甲の全幅を占める. 体はずんぐりしており, 歩脚は太く短い. 全体に灰色ないし灰褐色. 名前の通り, 4本の縦糸と多数の横糸からなる三角形の扇形の網を張る. 本州, 四国, 九州に分布し, 林の比較的暗い場所に生息する. 都区部では比較的稀で, 皇居以外では自然教育園と明治神宮で記録がある. 今期の調査では見つからなかった.

20. カタハリウズグモ *Octonoba sybotides* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄3~6 mm. 8眼, 有篩板. 背甲は灰褐色ないし濃灰色で正中部および周縁は淡色. 腹部背面は紫褐色ないし灰褐色で数対の白斑を有する. 樹木の枝間や草間に円網を張り, 渦状や直線状の

白帯（隠れ帯）をつける。北海道，本州，四国，九州の平地～低山地に分布し，市街地でも見られる。皇居にも全域に多数生息している。採集データ：省略。

ヒラタグモ科 Urocteidae

21. ヒラタグモ *Uroctea compactilis* L. Koch, 1878

体長雌雄6~10 mm（雄の腹部はやや小さい）。8眼，無篩板。体は扁平で，背甲は褐色ないし黄褐色，腹部は黒色の地に周縁を取り囲むような大きい白斑がある。建造物の壁やブロック塀などに円盤状の住居（巣）を作り，放射状に受信糸を引く。本州，四国，九州，南西諸島に分布する。皇居でも観瀑亭などの木造建築や鉄筋の建造物の外壁および大木の樹皮下などに住居（巣）が散見される。採集データ：省略。

ナミハグモ科 Cybaeidae

22. カチドキナミハグモ *Cybaeus nipponicus* (Uyemura, 1938)

体長雌雄10~12 mm。背甲は黒褐色ないし淡褐色，腹部は黒褐色または濃灰色で背面に数対の白色斑がある。樹林内の地面や林縁の崖（裸地）に管状の住居を作り表面に土粒をつける。日本固有種で本州（関東地方以西），四国，九州に分布する。都区部では皇居のほか明治神宮や自然教育園などの大規模緑地に数多く生息する。東京都島嶼部（伊豆諸島）では DD（情報不足）というカテゴリーでレッドリスト（保護上重要な野生生物種）に記載されている。港区芝公園が基準産地だが，現在も生息しているものかは不明。都区部でも同様に保護の対象とすべき種かも知れない。採集データ：省略。

23. ナミハグモ *Cybaeus mellotei* Simon, 1886

体長雌雄4~6 mm。前種より小型。体は全体に淡黄褐色で，通常，腹部に斑紋を欠く。樹林や草原の地表の礫の間などに管状の住居を作るが前種のように表面に土粒をつけない。日本固有種で本州（関東地方）に分布する。皇居では第Ⅰ期の調査においてわずかの個体が発見されているが，その後の調査では見つかっていない。ここでは原記載通りの綴りを用いたが，種小名の綴りについては議論がある（小野，2001 c）。原記載通りの綴り

を用いるべきと主張していた Platnick はこれまで Bonnet の提唱した修正名 *mellotei* を使用していたが，最近のカタログでは筆者（Ono, 2011）が指摘した Bösenberg & Strand (1906) 提唱の修正名 *mellotei* の方を用いている。また，新しい和名も提唱されているが，ジグモ，ユウレイグモ，オニグモ，ヒメグモ，カニグモ，イヅツグモ（種と科の和名が同一）などと同様に改称する必要性を感じない。

ハタケグモ科 Hahniidae

24. ハタケグモ *Hahnia corticicola* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄2~3 mm。体は全体に褐色系で，腹部に白色の山形斑がある。糸疣が横に1列に並ぶので識別は容易である。南西諸島を除く全国に分布し，平地から低山地の草むらや空き地など開けた場所の地表にシート状の網を張る。第Ⅰ期の調査においてわずかの個体が吹上御苑（果樹園）で発見されているが，今回は以下の2カ所で得られた。東京都島嶼部（伊豆諸島）では DD（情報不足）というカテゴリーで保護上重要な野生生物種に指定されている。

採集データ：1♂，吹上御苑（観瀑亭流れ左岸），22-II~8-III-2010，3♀，生物学研究所田圃，8-III~14-IV-2010，いずれもマレーズトラップによる捕獲。

タナグモ科 Agelenidae

25. ヤマヤチグモ *Tegeocolotes corasides* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄10~13 mm。背甲は黄褐色で両側は暗色，腹部は灰褐色で明瞭な矢筈状の斑紋がある。雄は雌より明色で，歩脚が長い。林内の地面や下草上，樹木のうろなどに管状の住居のある棚網を張る。北海道，本州，四国，九州の平地から低山地にかけて分布する。良い樹林環境が必要なため市街地ではあまり見かけないが，皇居では少なくとも。東京都島嶼部（伊豆諸島）では DD（情報不足）というカテゴリーで保護上重要な野生生物種に指定されている。

採集データ：1♂，吹上御苑（果樹園），2-23-II-2010，2♀，吹上御苑（観瀑亭流れ左岸），2-9-IX-2010，マレーズトラップによる捕獲。

26. ムサシヤチグモ *Coelotes musashiensis*
Nishikawa, 1989

体長雌雄10 mm 前後。体は全体に灰褐色ないし淡黒褐色で、腹部に明瞭な矢筈状の斑紋がある。林内の落葉層に棲む。本州（関東地方）に分布するが生息地は限られており、発見される頻度も多くないが、皇居では安定した生息状況が見られる。採集データ：省略。

27. シモフリヤチグモ *Iwogumoa insidiosa* (L. Koch, 1878)

体長雌雄8~13 mm。背甲は黄褐色ないし淡黒褐色で明瞭な斑紋があり、腹部は淡灰色で山形の暗色斑がある。林内の地表に管状の住居のある棚網を張る。北海道、本州、四国、九州に分布し、市街地にも多く、人家の庭や都会の公園などでもよく見かける。皇居でも個体数は多い。採集データ：省略。

28. コタナグモ *Cicurina japonica* Simon, 1886

体長雌雄3~4 mm。背甲は黄色ないし淡黄褐色、腹部は淡灰色で明瞭な斑紋を欠く。本州、四国、九州に分布する。林内の落葉層や石の下に小さい棚網を張るが、市街地でも公園や人家の庭などの暗所で見つかることがある。最近、ヨーロッパの一部地域に人為的に移入され定着した。皇居でも落葉中から数多く採集される。採集データ：省略。

29. クサグモ *Agelena silvatica* Oliger, 1983

体長雌雄12~18 mm。背甲は黄褐色の地に灰色の毛に覆われ、一對の黒色縦条がある。腹部は黄褐色または淡紫褐色で対になった暗色縦条および矢筈状の白色斑を備える。若齢の幼虫は全体に赤色で、成長に伴い斑紋が顕著になる。北海道、本州、四国、九州に分布し、樹木の枝や草間に管状の住居のある大きい棚網を張る。市街地の公園や庭の植木などにもよく見られ、窓枠など建造物に造網することもある。皇居でも普通種。採集データ：省略。

30. コクサグモ *Allagelena opulenta* (L. Koch, 1878)

体長雌雄6~12 mm。色彩、斑紋は前種に似る。北海道、本州、四国、九州に分布し、低木の枝間や草間に前種よりは小さく平面的な棚網を張る。市街地の公園や空き地などで普通に見られ、垣根

や植木の表面に多数が層になって造網することがある。皇居でもほぼ全域に生息する。採集データ：省略。

ホウシグモ科 *Zodariidae*

31. ドウシグモ *Doosia japonica* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄3~4 mm。体は全体に光沢のある黒色で、腹部背面前方に2対、後方正中部に2個の白斑がある。日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。樹上に棲み、狩猟性で、樹皮下に糸で袋状の住居を造る。良好な森林環境の指標となる種で、環境省のレッドリストでDD（情報不足）、東京都のレッドリストでは本土部NT（準絶滅危惧）、区部はVU（絶滅危惧II類）に指定されている。第I期の調査において、吹上御苑で生息が確認されたが、今回の調査では得られなかった。

キシダグモ科 *Pisauridae*

32. イオウイロハシリグモ *Dolomedes sulfureus* L. Koch, 1878

体長雌雄12~26 mm（雄はやや小型）。全体が橙色、褐色、黄色の個体や、黒褐色あるいは赤褐色の地に背甲と腹部背面の両側が白色のものなど色彩変異に富む。北海道、本州、四国、九州に分布し、地表や草上などで獲物を狩る。皇居でもとくに水辺で個体数が多い。採集データ：省略。

33. アズマキシダグモ *Pisaura lama* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄8~12 mm。体は黄褐色、褐色、赤褐色など色彩が多様で、背甲の中央部に明色の縦条がある。腹部は色彩が一樣なものから1対の黒褐色の縦条があるものなど斑紋に変異がある。北海道、本州、四国、九州に分布し、林縁の草地の地表や草上などを歩き回り獲物を狩る。東京都島嶼部（伊豆諸島）ではDD（情報不足）というカテゴリーで保護上重要な野生生物種に指定されている。皇居では過去1例の記録があるのみで、現在も生息しているか疑問。

コモリグモ科 Lycosidae

34. キバラコモリグモ *Pirata subpiraticus* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄5~8 mm. 背甲は濃黄褐色、腹部背面は黄褐色の地に対になった黒斑と白毛からなる斑紋がある。全国の平地~低山地に見られ、水田や湿地の水辺に生息する。皇居では上道灌濠、下道灌濠、蓮池濠などの周辺に生息するが個体数は多くない。採集データ：省略。

35. イモコモリグモ *Pirata piratoides* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄3~7 mm. 色彩は前種に似るが、やや明るい。北海道、本州、四国、九州の平地~低山地に見られ、前種同様水辺を好むが、比較的明るい場所に生息する。第1期の調査で吹上大池、上中、下道灌濠、蓮池濠の周辺から記録されているが、今期の調査では得られなかった。

36. チビコモリグモ *Pirata procurvus* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄3~5 mm. 前2種よりやや小型で色彩が濃い。北海道、本州、四国、九州の平地~低山地に分布し、林内の落葉層のほか、草地や耕作地などでも湿った場所で見られる。皇居では吹上御苑(果樹園)からのみ得られている。

採集データ：3♀, 1 juv. ♀, 1 juv., 4-VIII-2011, 3♀, 2♂, 2 juv. ♀, 2 juv. ♂, 12-VI-2012, 吹上御苑(果樹園), 小野展嗣・初芝涼採集。

37. コガタコモリグモ *Pirata tanakai* Brignoli, 1983

体長雌雄3~5 mm. 前種と酷似する。北海道および本州に分布し、草地や湿地の地表、草間に見られる。第1期調査で吹上御苑(果樹園)から得られている。

38. ヒノマルコモリグモ *Tricca ipsa* (Karsch, 1879)

体長雌雄7~12 mm. 雌は全体に褐色で、背甲の正中部は明るく、腹部背面に不明瞭な数対の明色斑がある。雄は雌より濃色で、背甲および腹部の正中部は灰色。幼虫は黄色く別種の感を呈する。全国の平地~低山地の林内の地表や草地に生息し、市街地や耕作地でも普通に見られる。皇居のコモリグモ科としてはハリゲコモリグモに次い

で採集される頻度が高い。採集データ：省略。

39. ハラクロコモリグモ *Lycosa coelestis* L. Koch, 1878

体長雌雄10~16 mm. 雌は全体に褐色ないし濃灰色で、腹部背面に不明瞭な明色斑がある。雄は雌より濃色で、背甲および腹部の正中部は明るく目立つ。腹部の下面が黒いのでこの名がある。本州、四国、九州の平地~低山地に普通に見られ、林内の地表や草地、畑などの地表を歩き回る。大型の種で、皇居では草むらや芝地に数多く生息する。採集データ：省略。

40. アライトコモリグモ *Trochosa ruricola* (De Geer, 1778)

体長雌10~15 mm, 雄7~10 mm. 雌雄ともは背甲は褐色で、1対の黒褐色の側条があり、腹部は黒褐色で心臓斑が明るく目立つ。雄は雌より濃色で、背甲および腹部の正中部は明るく目立つ。北海道、本州に分布し、林内の地表や耕作地に見られる。モニタリング調査において吹上御苑の観瀑亭付近で1頭採集されているのみ。

41. ハリゲコモリグモ *Pardosa laura* Karsch, 1879

体長雌雄4~8 mm. 雌は全体に黄褐色ないし褐色で、背甲の正中部は明るく、腹部背面に不明瞭な明色斑がある。雄は全体に黒色で、背甲および腹部の正中部は白色ないし灰色で明るい。南西諸島を除く全国に分布し、林縁の下草や草地、耕作地など比較的明るい場所を徘徊する。皇居でもっとも普通に見かけるコモリグモである。採集データ：省略。

42. キクヅキコモリグモ *Pardosa pseudoannulata* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄6~10 mm. 雌雄とも全体に黄褐色ないし淡緑褐色で、背甲の両側は黒褐色、腹部背面に不明瞭な明色斑がある。全国の平地~低山地に分布し、水田や水辺の草間に生息する。蓮池濠や上中道灌濠の周辺で得られているが個体数は少ない。

採集データ：1♂, 吹上御苑(果樹園), 28-X-2011, 小野展嗣採集；1 juv. ♀, 中道灌濠周辺, 17-IV-2012, 水山栄子採集。

43. ウヅキコモリグモ *Pardosa astrigera* L. Koch, 1878

体長雌雄5~10 mm. 雌は全体に黄褐色ないし淡褐色で、背甲の両側は暗色、腹部背面に数対の光沢のある点斑がある。雄は全体に色彩が濃い。北海道、本州、四国、九州の平地~低山地に分布し、草地や耕作地などの比較的明るい場所に見られる普通種だが、皇居では数が少なく、これまで生物学研究所周辺や吹上御苑でわずかの個体が得られているだけである。

採集データ：1 juv. ♀, 吹上御苑（果樹園），28-X-2011, 水山栄子採集。

ササグモ科 Oxyopidae

44. ササグモ *Oxyopes sertatus* L. Koch, 1878

体長雌雄7~11 mm. 全体に黄緑色ないし濃黄色で、背甲の中央に暗色の縦線が走り、腹部背面の両側は暗赤褐色を帯びる。本州、四国、九州、南西諸島の平地~低山地に分布し、比較的開けた林縁の下の草、草原や水田、耕作地などの草本上を徘徊する。跳躍力に優れ、すばしこい。皇居でも個体数はひじょうに多い。

センシヨウグモ科

45. センシヨウグモ *Ero japonica* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄3~4 mm. 全体に灰緑色、黄褐色ないし褐色で、背甲、腹部とも黒褐色や白色の複雑な斑紋がある。北海道、本州、四国、九州の平地~低山地に分布し、暗い林内から明るい草むらまで幅広い環境で見られる。主に造網性のクモを捕食する。普通種だが、皇居ではあまり見られない。

採集データ：1♂, 2~9-VII-2009, 吹上御苑（果樹園），マレーズトラップによる捕獲；1 juv., 4-VIII-2011, 1 juv., 27-II-2013, 吹上御苑（果樹園），小野展嗣・水山栄子採集；1♀, 14-VII-2011, 1♀, 25-VII-2012, 吹上御苑（観瀑亭周辺），初芝涼・小野展嗣採集。

サラグモ科 Linyphiidae

46. チビアカサラグモ *Nematogmus sanguinolentus* (Walckenaer, 1837)

体長雌雄1.7~2.2 mm. 全体に橙色をした美しい種。本州、四国、九州、南西諸島に分布し、草の間にシート網を張る。吹上御苑や中道灌濠周辺に

数多く生息する。採集データ：省略。

47. スガナミヤマジコナグモ *Tapinocyba suganamii* Saito et Ono, 2001

体長雌雄1.0~1.4 mm. 背甲は淡黄褐色、腹部は灰色。雄の頭部は隆起し両側に窪みがある。本州に分布し、関東地方では個体数多い。皇居では林内の土壌中に普通。採集データ：省略。

48. ナラスカグモ *Parhyppomma naraense* (Oi, 1960)

体長雌雄1.8~1.9 mm. 全体に濃橙色ないし赤黄色。雄の頭部は隆起し両側に窪みがある。本州に分布するが全体的に記録は少ない。皇居ではモニタリング調査で1頭が採集されているのみである。

49. ザラアカムネグモ *Asperthorax communis* Oi, 1960

体長雌雄1.8~2.4 mm. 背甲は赤色で頭部は黒みを帯びる。腹部は濃灰色ないし黒色で斑紋を欠く。本州、四国、九州に分布し、草間にシート網を張る。名前の通り「ざら」にいる種だが、皇居ではこれまでに吹上御苑で数頭の記録があるのみで、今期の調査でも採集されたのは以下の1頭だけである。

採集データ：1♂, 吹上御苑（観瀑亭流れ左岸），12~17-V-2011, マレーズトラップによる捕獲。

50. イマダテテングヌカグモ *Oia imadatei* (Oi, 1964)*

体長雌雄1.2~1.5 mm. 背甲は黄色、腹部は黄白色で斑紋を欠く。ひじょうに小型。北海道、本州、九州に分布し、落葉層に生息する。都区部では明治神宮から記録されているが、皇居では今回初めて採集された。

採集データ：2♀, 吹上御苑（地主山），21-X-2011, 石井清ほか採集（土壌動物調査）。

51. ハラジロムナキグモ *Diplocephaloides saganus* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄1.9~2.1 mm. 背甲は明橙色、腹部は黄色、薄紫色、灰色など色彩に変異がある。北海道、本州、四国、九州に分布する。草本上の比較的高い位置にシート網を張り、しばしばスウィーピングネットに入る。皇居では個体数が多い。採集データ：省略。

52. アトグロアカムネグモ *Ummeliata feminea*
(Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄2.5~2.8 mm. 背甲は明るい褐色, 腹部は黒褐色で正中部は明るい. 雄の頭部の眼の後方に瘤がある. 本州, 九州に分布し, 関東地方では市街地の人家の庭などでもよく見られ, トウキョウアカムネグモの異名がある. 地表にシート網を張る. 皇居ではこれまで吹上御苑, 上, 中道灌漑周辺などで採集されているが個体数は多くない.

採集データ: 1 ♀, 生物学研究所田圃, 29-VI~6-VII-2010, マレーズトラップによる捕獲.

53. オオサカアカムネグモ *Ummeliata osakaensis*
(Oi, 1960)*

体長雌雄2.0~2.8 mm. 前種に似て背甲は褐色, 腹部は濃灰色で正中部は明色. 北海道, 本州に分布し, 草地の地表にシート網を張る. 都区部では明治神宮でも記録されている.

採集データ: 1 ♀, 大道庭園, 14-VII-2011, 小野展嗣採集.

54. ヤマトトウジヌカグモ *Tojinium japonicum*
Saito et Ono, 2001

体長雌雄1.7~1.8 mm. 背甲は黄褐色で両側は暗色, 腹部は黒褐色. 北海道, 本州に分布し, 落葉層に見られる. これまで吹上御苑, 中~下道灌漑周辺で採れているが, 個体数は少ない.

採集データ: 1 ♀, 吹上御苑 (覆馬場跡), 2-VI-2011, 初芝涼採集; 1 ♂, 吹上御苑 (果樹園), 17-IV-2012, 渡邊芳美採集.

55. コサラグモ *Aprifrontalia mascula* (Karsch, 1879)

体長雌雄3.0~4.2 mm. 背甲は赤褐色で, 腹部は黄褐色~黒褐色. この類としてはひじょうに大型. 本州, 四国, 九州に分布する. 樹林の下草やクマザサの葉裏などにシート状の網を張る. 草間のスウィーピングでネットに入る. これまで吹上御苑や中道灌漑周辺で採れているが, 個体数は多くない.

採集データ: 1 ♂, 24-V~2-VI-2010, 2 ♀, 1~8-VI-2010, 1 ♂, 8~15-VI-2010, 生物学研究所田圃, マレーズトラップによる捕獲; 2 ♂, 吹上御苑 (果樹園), 12-VI-2012, 渡邊芳美採集.

56. ニセアカムネグモ *Gnathonarium exciccatum*
(Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄1.7~2.3 mm. 全体に明るい橙色. 雄の眼域後方は隆起する. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 都区部では自然教育園や上野公園などで記録があるが, 皇居ではこれまで第I期調査の際に蓮池濠周辺で1頭が採集されたのみ.

採集データ: 1 ♀, 4~11-XI-2009, 1 ♀, 11~18-V-2010, 吹上御苑 (果樹園), マレーズトラップによる捕獲.

57. クロスジアカムネグモ *Gnathonarium gibbelum*
Oi, 1960*

体長雌雄2.3~2.8 mm. 前種に酷似するがやや大型で, 雄の頭部の隆起が大きい. 本州に分布する. 前種に比べると採集される頻度は低い. 改称された和名を用いる.

採集データ: 1 ♂, 吹上御苑 (果樹園), 28-X-2011, 水山栄子採集.

58. テングヌカグモ *Paikiniana mira* (Oi, 1960)

体長雌雄2.0~2.2 mm. 体は全体に赤褐色ないし黄褐色. 本州, 九州に分布する. 樹林の落葉層や地表に生息し, 市街地でもしばしば見られるが, 皇居では個体数は多くない.

採集データ: 1 ♀, 18~24-XI-2009, 吹上御苑 (果樹園), 1 ♀, 26-IV~4-V-2010, 1 ♀, 22~30-XI-2010, 生物学研究所田圃, 以上マレーズトラップによる捕獲; 1 ♀, 吹上御苑 (観瀑亭周辺), 17-IV-2012, 渡邊芳美採集.

59. コテングヌカグモ *Paikiniana vilgaris* (Oi, 1960)

体長雌雄2.0~2.8 mm. 背甲は赤褐色, 腹部は褐色ないし黒褐色. 前種に似る. 「小」と和名にあるが, 前種と同じあるいはやや大きい. 本州, 九州に分布する. 草地に生息する. 市街地では稀で, 皇居ではかつてモニタリング調査で雄が1頭採集されたのみである.

60. フタエツノヌカグモ *Paikiniana keikoe* (Saito, 1988)

体長雌雄2.0~3.0 mm. 背甲は赤褐色, 腹部は濃灰色. 前2種よりやや大きい. 本州に分布し, 関東地方では普通に見られる. 皇居でも吹上御苑や上~中道灌漑周辺の木立の落葉層に数多く生息する. 採集データ: 省略.

61. クロナンキングモ *Hylyphantes graminicola* (Sundevall, 1829) *

体長雌雄2.1~2.6 mm. 背甲は褐色で、腹部は濃灰色ないし黒色. 雄の頭部は隆起しない. 北海道, 本州, 九州に分布する. 草原の地表や草の根元などに造網し, 水田や耕作地に多い. 都区部では記録が少なく, 皇居では今回初めて採集された.

採集データ: 1♂, 道灌新道, 20~27-IV-2010, マレーズトラップによる捕獲.

62. アゴヒゲサラグモ *Nispa barbatus* Eskov, 1993

体長雌雄3~4 mm. 背甲は黄褐色, 腹部は濃灰色. 雄の頭部は全体が瘤状に隆起する. コサラグモ亜科 *Erigoninae* のクモとしては比較的大型. 北海道, 本州に分布するが, 記録は少ない. 第I期の調査において1996および1997年に吹上御苑から得られ, サラグモ科の1種(小野, 2000, p.136)として記録されているが, 今期の調査では採集されなかった.

63. ノコギリヒザグモ *Erigone prominens* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄1.5~2.0 mm. 体は濃灰色, 黒褐色あるいは黒色. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布し, 草地の地表にシート網を張る. 水田や耕作地にも多く見られ, 市街地の芝生などにも生息する. 皇居ではこれまでモニタリング調査の際に中道灌濠周辺で1頭が採れていた. 今回は2例目.

採集データ: 1♂, 生物学研究所田圃, 13~20-VII-2010, マレーズトラップによる捕獲.

64. マルムネヒザグモ *Erigone edentata* Saito et Ono, 2001 *

体長雌雄1.3~1.4 mm. 前種より小型で, 背甲は淡黄褐色, 腹部は濃灰色. 本州に分布し, 全国的には採集記録は多くないが, 都区部では明治神宮や白金自然教育園などの緑地ではしばしば採集される. 落葉層に生息する.

採集データ: 1♀, 生物学研究所田圃, 14~27-XII-2010, マレーズトラップによる捕獲.

65. デーニッツサラグモ *Doenitzius peniculus* Oi, 1906

体長雌雄3.2~3.9 mm. コノハサラグモ亜科 *Micronetinae* に分類される. 体は全体に灰色あるいは黒色. 本州に分布する. 草原に生息し, 草の

根元や地表の隙間にシート網を張る. 市街地にも見られるが, 個体数は少ない. 第I期の調査において吹上御苑で生息が確認されているが, 今期の調査では得られなかった.

66. コデーニッツサラグモ *Doenitzius pruvus* Oi, 1960

体長雌雄2.3~2.6 mm. 体は全体に黒褐色あるいは黒色. 前種に似るが小型で, 生息環境にも違いがある. 本州および四国に分布する. 樹林の落葉層に生息し, 市街地の林でも数多く見られる. 皇居では林内の土壌性クモ類の優占種のひとつで, 個体数がひじょうに多い. 採集データ: 省略.

67. カントウケシグモ *Nippononeta kantonis* Ono et Saito, 2001

体長雌雄1.5~1.6 mm. 体は全体に黄褐色ないし淡褐色. 北海道および本州に分布する. 樹林の落葉層に生息する. 第I期の調査で吹上御苑から数頭が得られているが今期の調査では採集されなかった. 都区内の他所では白金自然教育園から記録がある.

68. クロケシグモ *Meioneta nigra* Oi, 1960 *

体長雌雄1.7~2.2 mm. 体は全体に褐色ないし黒褐色. 南西諸島を除く全国に分布し, 樹林や草原の地表に造網する. 都区部では板橋区から記録があるが, 皇居からは今回が初記録である.

採集データ: 1♀, 生物学研究所田圃, 7~22-XII-2010, マレーズトラップによる捕獲.

69. タテヤマテナガグモ *Microbathyphantes tateyamaensis* (Oi, 1960)

体長雌雄1.7~2.2 mm. サラグモ亜科 *Linyphiinae* のクモとしては小型. 体は淡い黄褐色, 灰色ないし黒褐色で, 斑紋のまったくない個体と後方に数条の明色斑ないし暗色斑を有するものがある. 北海道, 本州, 四国, 九州, 小笠原諸島に分布し, 平地から低山地にかけて, 樹林の地表の窪みや瓦礫の下などにシート網を張る. 市街地にもよく適応し, 空き地や人家の庭園などにも生息する. 皇居のサラグモ類中もっともよく目につき, 土壤資料の中でも優占種の1つである. 色彩や腹部の斑紋に変異があり, 別種かと思わせる個体があり, ヤセサラグモ属の1種 *Lepthyphantes* sp.として皇居から記録のある種は, 本種の黒褐色で腹部後方

に数本の横条のある個体ではないかと推測される。採集データ：省略。

70. ヘリジロサラグモ *Neriene oidedicata* (Van Helsdingen, 1969)

体長雌雄4~6 mm. 背甲は黄褐色ないし褐色、腹部は灰褐色の地に数対の暗色斑および側縁の白色条を備えるが、全体が黒色の色彩変異も見られる。全国に分布する。本属の種は比較的良好な森林あるいは草原環境を必要とするが、本種は市街地にもよく適応し、空き地や人家の庭などでも見られる。皇居では吹上御苑に生息するが、個体数は多くない。

採集データ：1♂, 吹上御苑 (果樹園), 25-V-1-VI-2010, マレーズトラップによる捕獲；1♀, 吹上御苑 (果樹園), 12-VI-2012, 渡邊芳美採集；1 juv., 中道灌漑周辺, 12-VI-2012, 渡邊芳美採集。

ホラヒメグモ科 Nesticidae

71. コホラヒメグモ *Nesticella brevipes* (Yaginuma, 1970)

体長雌雄2.0~3.5 mm. 体の色彩は全体に黄白色から黄褐色まで濃淡に変異がある。全国に分布し、樹林内の暗所や洞窟などに生息する。今期の調査では採集されなかった。

ヒメグモ科 Theridiidae

72. ヤマトコノハグモ *Enoplognatha caricus* (Fickert, 1876)

体長雌雄4~7 mm (雄はやや小型)。全体に黒褐色で、腹部には白色の縁取りと中央部前方に白色斑がある。北海道, 本州, 四国, 九州に分布し、草原や耕作地の地表の窪みなどに住居のある不規則網を張る。市街地では稀で、皇居では蓮池濠や中道灌漑の周辺で記録があるが、今期は採集されなかった。

73. カレハヒメグモ *Enoplognatha abrupta* (Karsch, 1879)

体長雌雄4~8 mm. 前種によく似るが、色彩はやや明るい。本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布し、樹皮下や地表の間隙などに住居のついた不規則網を張る。市街地でも寺社林などでしばしば見られる。個体数は多くない。

採集データ：1 juv. ♀, 吹上御苑 (果樹園), 27-II-2012, 水山栄子採集；2 juv., 吹上御苑 (観瀑亭周辺), 21-VIII-2012, 渡邊芳美採集；1 juv., 中道灌漑周辺, 21-VIII-2012, 渡邊芳美採集；1 juv. ♀, 1 juv. ♂, 生物学研究所周辺, 7-III-2013, 大和田守採集。

74. ハンゲツオスナキグモ *Steatoda cingulata* (Thorell, 1890) *

体長雌雄5~9 mm (雄はやや小型)。体は全体が黒色で、腹部の前縁に三日月型の黄色い横斑がある。全国に分布し、草地や裸地の石の下や地表の窪み、草木の根元などに住居の付いた不規則網を張る。耕作地や海岸、人家の庭石の間などにも見られる。皇居では今回初めて見つかった。

採集データ：1 juv., 4-VII-2011, 吹上御苑 (果樹園), 初芝涼採集。

75. ハラダカツクネグモ *Phoroncidia altiventris* Yoshida, 1985

体長雌雄2 mm 前後。背甲は黒褐色、黒色で不明瞭な白色斑紋がある。腹部は高く疣状の突起を備える。本州, 四国, 九州に分布し、草本からスウィーピングによって得られるが習性は不明。個体数は少ない。

採集データ：1 juv., 中道灌漑周辺, 21-VIII-2012, 渡邊芳美採集。

76. ヒシガタグモ *Episinus affinis* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄3~5 mm. 背甲は黄褐色。腹部は黒褐色で後縁は灰白色。全国に分布し、市街地でも見られる。低木や草本の枝や葉に数本の糸にからなる単純な網を張る。皇居では個体数は多くない。

採集データ：1 juv., 道灌新道, 17-24-VIII-2010, マレーズトラップによる捕獲；1 juv., 吹上御苑 (滝見口), 14-VII-2011, 初芝涼採集。

77. スネグロオチバヒメグモ *Stemmops nipponicus* Yaginuma, 1969

体長雌雄2~3 mm. 背甲は黄褐色ないし赤褐色、腹部は暗褐色で不明瞭な白斑がある。本州, 四国, 九州に分布し、林内の落葉層に生息する。市街地の緑地でもよく見られ、皇居では土壌性クモ類の優占種の1つである。採集データ：省略。

78. バラギヒメグモ *Takayus chikunii* (Yaginuma, 1960)

体長雌雄3~5 mm. 背甲は黒褐色. 腹部は茶褐色の地に目立つ白斑がある. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布し, 市街地でも見られる. 低木や草本の葉裏に造網する. 皇居ではこれまでに吹上御苑で雄1頭が得られているが, 今期の調査では採集されなかった.

79. ハイイロヒメグモ *Paidiscura subpallens* (Bösenberg et Strand, 1906) *

体長雌雄2~3 mm. 背甲は赤褐色, 腹部は黒褐色ないし赤褐色で中央部が明色のものや全身が灰色のものなど斑紋に変異がある. 北海道, 本州, 四国, 九州の平地や里山に生息し, 水田などの耕作地や市街地の緑地でも見られる. 草の根元や地表の窪みなどに不規則網を張る.

採集データ: 1♀, 吹上御苑 (観瀑亭流れ左岸), 19~26-VII-2011, マレーズトラップによる捕獲.

80. ムナボシヒメグモ *Platnickina sterninotata* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄2~3 mm. 背甲は黄褐色で正中部は黒色, 腹部は淡褐色の地に黒色や白色の細かい点斑がある. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布し, 市街地の緑地でも普通に見られる. ほかの造網性のクモを捕食する. 樹木の枝葉や建造物の外壁などにとまっていることが多い. 皇居でもきわめて個体数が多い. 採集データ: 省略.

81. オオヒメグモ *Parasteatoda tepidariorum* (C. L. Koch, 1841)

体長雌5~8 mm, 雄2~4 mm. 背甲は一樣に暗褐色または灰褐色, 腹部は黄褐色か灰色の地に, 八字状の白線や黒斑, 白斑などによる複雑な模様がある. 人為分布によりに世界中の温暖な地域に分布し, 人家や倉庫の内外に普通に見られる. 皇居にも建造物の周辺に多い. 採集データ: 省略.

82. カグヤヒメグモ *Parasteatoda culcivora* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌4~6 mm, 雄2~3 mm. 背甲は一樣に褐色または黒褐色, 腹部は淡褐色の地に, 黒斑および白斑による複雑な模様がある. 本州, 四国, 九州に分布する. 林内の樹木の幹や枝の間に枯葉を吊るした不規則網を張る. 皇居でも個体数が多い. 採

集データ: 省略.

83. ツリガネヒメグモ *Parasteatoda angulithorax* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌3~4 mm, 雄2~3 mm. 背甲は一樣に黒褐色, 腹部は淡褐色の地に, 通常は黒斑および白斑による複雑な模様がある. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 林内の地表近くに釣り鐘状の住居のついた不規則網を張る.

採集データ: 1 juv.♂, 吹上御苑 (果樹園), 29-VII-2009, 小野展嗣採集.

84. オオツリガネヒメグモ *Parasteatoda tabulata* (Levi, 1980)

体長雌3~5 mm, 雄3~4 mm. 背甲は一樣に黒褐色, 腹部は灰褐色の地に黒斑および白斑が散在する. 外見はカグヤヒメグモに, 習性は前種に似る. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布する.

採集データ: 1♂, 中道灌漑周辺, 21-VIII-2012, 渡邊芳美採集.

85. キヒメグモ *Parasteatoda asiatica* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄2~3 mm. 全体に橙色ないし黄色で, 腹部後方に黒斑がある. 本州, 四国, 九州に分布する. モニタリング調査で吹上御苑からわずかの個体が採集されているのみである.

86. ヒメグモ *Parasteatoda japonica* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌3~5 mm, 雄2~3 mm. 背甲は一樣に明るい橙色, 腹部は黄色ないし赤黄色の地に, 白色の線状斑がある. 全国の平地から低山地に分布し, 市街地の公園や人家の庭でもよく見られる. 樹木の枝先にシート網を付けた不規則網を張り, 産卵期の雌は中央部に枯葉を吊るして中に潜む. ニホンヒメグモと改称されたが, ここではもとの和名を用いる. 皇居でも数多い. 採集データ: 省略.

87. キヨヒメグモ *Parasteatoda oculiprominens* (Saito, 1939)

体長雌2~4 mm, 雄2~3 mm. 色彩は前種に似るが地色はやや淡く, 斑紋は強い. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布し, 市街地の公園などでもよく見られる. 樹林や草間の低い位置に造網する. 皇居では第 I 期の調査で吹上御苑から1個体採集され

ているだけである。

88. シロカネイソウロウグモ *Argyrodes bonadea* (Karsch, 1881)

体長雌3 mm 前後, 雄2 mm 前後. 背甲は一様に黒褐色, 腹部は仁丹のような光沢のある銀色. 腹部は円錐形で背面は上方に突出する. 本州, 四国, 九州, 南西諸島, 小笠原に分布する. オニグモ類などほかのクモの網に侵入し獲物を盗み食いする.

採集データ: 1 juv., 28-X-4-XI-2009, 1 juv. ♀, 11-V-2010, 1♂, 21-VIII-2012, 吹上御苑 (果樹園), マレーズトラップによる捕獲および工藤泰恵・水山栄子採集; 2 juv. ♂, 中道灌濠周辺, 4-VIII-2011, 水山栄子・小野展嗣採集.

89. チリイソウロウグモ *Argyrodes kumadai* Chida et Tanikawa, 1999

体長雌7~11 mm, 雄5~9 mm. 背甲は暗褐色, 腹部は黄褐色または赤褐色の地に, 黒色と白色の模様がある. 腹部は長く, 後方が太い. 本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布する. クサグモなど他種の網に侵入し, 獲物を盗み, ときに網主を捕食する. 皇居に数多く生息している. 採集データ: 省略.

90. トビジロイソウロウグモ *Argyrodes cylindratus* Thorell, 1898 *

体長雌4~6 mm, 雄3~4 mm. 背甲は黒色, 腹部は黄褐色の地に黒褐色および白色の斑紋がある. 腹部は後方に突出するが比較的短い. 本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布する. シロカネグモ類などのクモの網に侵入し獲物を盗む. 皇居初記録. 都区部では明治神宮にも生息する.

採集データ: 1 juv. ♂, 中道灌濠周辺, 4-VIII-2011, 小野展嗣採集.

91. フタオイソウロウグモ *Neospintharus fur* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄2~4 mm (雄はやや小型). 体は全体に赤褐色. 腹部後端はやや後方に突出し先端は鈍く二分する. 本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布する. クサグモなどの網に侵入し, 網主が食べない昆虫を食べる. 皇居で見られるイソウロウグモの類の中でもっとも普通. 採集データ: 省略.

92. ツノナガイソウロウグモ *Neospintharus nipponicus* (Kumada, 1990)

体長雌3~5 mm, 雄2~3 mm. 形態, 習性ともに前種に似るが, 体は全体に黄褐色で, 雌の腹部後端はより強く後方に突出する. 本州, 四国, 九州に分布する. 第1期調査において吹上御苑で1頭が記録されているのみ.

93. ヤリグモ *Rhomphaea sagana* (Dönitz et Strand, 1906)

体長雌6~11 mm, 雄6~8 mm. 体は全体に黄褐色. 腹部は細長く, 背面が後方に長く突出する. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. ヒメグモ類などのクモの網に侵入し, 網主を捕食する. 第1期調査において吹上御苑で1頭が記録されているのみ.

94. ヒゲナガヤリグモ *Rhomphaea labiata* (Zhu et Song, 1991)

体長雌5~10 mm, 雄4~6 mm. 前種に酷似する. 本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布する. 前2種ともども皇居では稀.

採集データ: 1♂, 吹上御苑 (滝見口周辺), 29-VII-2009, 小野展嗣採集.

95. オナガグモ *Ariamnes cylindrogaster* Simon, 1888

体長雌20~30 mm, 雄15~25 mm. 体は一様に淡緑色. 腹部はひじょうに長く, 糸疣を越えて後方に突出する. 本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布する. 樹木の枝の間や草間にわずかの糸を張り静止し, それを伝ってくるクモを捕食する. 皇居では個体数は多くない.

採集データ: 1 juv., 吹上御苑 (果樹園), 23-II-2-III-2009, マレーズトラップによる捕獲; 1 juv., 中道灌濠周辺, 28-X-2011, 1 juv. ♂, 吹上御苑 (果樹園), 17-IV-2012, 水山栄子採集.

96. シモフリミジングモ *Dipoena punctisparsa* Yaginuma, 1967

体長雌3~4 mm, 雄2~3 mm. 背甲は一様に黒褐色, 腹部は幅広く, 黄褐色または褐色で, 黒斑や白斑がある. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 市街地の公園などでもよく見られ, 植物の枝や葉裏で待ち伏せて, アリを捕らえる. 個体数は多くない.

採集データ: 1♂, 吹上御苑 (果樹園), 12-VI-2012, 小野展嗣採集.

97. ボカシミジグモ *Yaginumena castrata* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌4~5 mm, 雄2~3 mm. 体は一樣に黒色. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 樹木の枝葉の間や草本に糸を引いて静止し, アリを捕食する. 山地に多く, 市街地では稀で, 個体数は多くない.

採集データ: 1 juv., 生物学研究所, 27-II-2013, 水山栄子採集.

98. コアカクロミジグモ *Yaginumena mutilata* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄2~3 mm (雄はやや小さい). 体は一樣に紫褐色または黒褐色. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 市街地でも落葉層によく見られるが, 見つかる頻度が少なくなっている. アリを捕食する. 第I期調査において土壌資料から多数個体が得られているが, 今期の土壌調査では見つからなかった.

99. カニミジグモ *Phycosoma mustelinum* (Simon, 1888)

体長雌雄2~4 mm. 背甲は黄褐色で頭部は黒く, 腹部は黒褐色で白黄色の明瞭な斑紋がある. 全国の平地~低山地に分布する. 植物の枝や葉裏などで待ち伏せて, アリを捕らえる. 市街地にも多く, 皇居のミジグモ類の中ではもっとも普通に見られる.

採集データ: 1♂, 11-V-2010, 1♀, 1 juv., 4-VIII-2011, 1♀, 28-X-2011, 1♀, 17-IV-2012, 吹上御苑 (果樹園), 工藤泰恵・初芝涼・水山栄子・小野展嗣採集; 1♂, 11-V-2010, 1♂, 12-VI-2012, 1♂, 21-VIII-2012, 吹上御苑 (観瀑亭周辺), 工藤泰恵・渡邊芳美・小野展嗣採集; 1♀, 4-VIII-2011, 3♀, 1♂, 2 juv., 25-VII-2012, 1♀, 5 juv., 21-VIII-2012, 中道灌漑周辺, 小野展嗣・水山栄子・渡邊芳美採集.

ヨリメグモ科 Anapidae

100. ナンプコツブグモ *Mysmenella pseudojobi* Lin et Li, 2008

体長雌雄1 mm 前後. 背甲は赤褐色ないし黒褐色, 腹部は黒褐色ないし黒色で白斑がある. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布し, 草の根元や地表の窪みなどに球状 (籠状) の円網を張る. 市街地では稀で, 皇居では第I期調査において土壌資料

からわずかの個体が得られているが, 今期は未発見.

ジョロウグモ科 Nephilidae

101. ジョロウグモ *Nephila clavata* L. Koch, 1878

体長雌15~30 mm, 雄6~12 mm. 雌雄で別種の感がある. 雌の背甲は銀白色, 腹部背面は黄色と水色の縞模様で腹面は赤い. 雄の背甲は黒褐色で正中部は明るく, 腹部は黄褐色または白色の地に黒褐色の斑紋がある. 卵で冬を越し, 幼虫は5月頃出囊する. 成虫は晩夏から秋にかけて出現し, とくに雌が樹間に張る大きいU字型の網は目立つ. 本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布する. 市街地の公園や人家の庭先などでも見られ, 皇居でも個体数は多い. 採集データ: 省略.

アシナガグモ科 Tetragnathidae

102. メガネドヨウグモ *Metleucauge yunohamensis* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌8~13 mm, 雄5~8 mm. 背甲は黄褐色で前方に眼鏡状の黒斑がある. 腹部は褐色ないし黒褐色で, 中央部および側面に明瞭な白斑がある. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 樹林や藪に生息し, 比較的大きい水平円網を張る. しばしば溪流や池などの水辺に造網する. 生息場所が限定されるが, 皇居でも散見される.

採集データ: 1 juv. ♀, 吹上御苑 (果樹園), 17-IV-2012, 1 juv., 吹上御苑 (観瀑亭近くの流れ), 11-XI-2011, 水山栄子採集; 1♀, 中道灌漑, 17-IV-2012, 小野展嗣採集.

103. オオシロカネグモ *Leucauge magnifica* Yaginuma, 1954

体長雌10~15 mm, 雄7~12 mm. 背甲は黄褐色ないし黒褐色, 腹部は銀白色で黄色を帯びることがあり, 対になった黒い縦条がある. 本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布する. 水辺でよく見られ, 樹間や草間に大型の水平円網を張る. 採集データ: 省略.

104. コシロカネグモ *Leucauge subblanda* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄7~11 mm (雄はやや小型). 体型, 習性とも前種にひじょうによく似る. 全国に分布し, 草原から樹林内の下草など幅広い環境で見られる.

前種ともども、皇居で普通に見られる。採集データ：省略。

105. キララシロカネグモ *Leucauge subgemmea*
Bösenberg et Strand, 1906

体長雌6~8 mm, 雄4~6 mm. 腹部は卵形で前2種より短い。背甲は一様に黄褐色、腹部は黄色で細かい白斑および黒斑による複雑な模様がある。北海道、本州、四国、九州に分布し、林縁の下草や草原の草の間に水平円網を張る。第I期調査において多数個体の記録があるが今期の調査では以下の記録のみ。

採集データ：2 juv. ♀, 吹上御苑（果樹園）、12-VI-2012, 小野展嗣・渡邊芳美採集。

106. アシナガグモ *Tetragnatha praedonia* L. Koch,
1878

体長雌8~15 mm, 雄5~12 mm. 腹部は円筒形で、中央部よりやや前方でもっとも幅広い。背甲は一様に黒褐色、腹部は黒褐色の地に黒色や灰白色などの複雑な斑紋がある。全国に分布し、林縁の下草や草原、耕作地、市街地の公園など幅広い環境で見られる。採集データ：省略。

107. ウロコアシナガグモ *Tetragnatha squamata*
Karsch, 1879

体長雌4~6 mm, 雄3~5 mm. 全体に淡緑色の美しいクモで、樹木や草本の葉裏に小さい水平円網を張る。ピーティング法でよく採集される。全国の平地~低山地に分布し、皇居でも数多い。採集データ：省略。

108. シコクアシナガグモ *Tetragnatha vermiformis*
Emerton, 1884

体長雌7~10 mm, 雄5~9 mm. 背甲は黄褐色、腹部は白黄色ないし緑白色。本州、四国、九州に分布し、水田に多い。第I期調査においてわずかの個体の記録があるが今期の調査では得られなかった。

109. ヤサガタアシナガグモ *Tetragnatha maxillosa*
Thorell, 1895

体長雌7~15 mm, 雄4~10 mm. 体の大きさに著しい変異がある。腹部はアシナガグモより細長い。背甲は黄褐色ないし褐色で、腹部は黄褐色の地に黒斑および白斑による縦向きの斑紋がある。全国

に分布し、草の間に水平円網を張る。水辺に多く、市街地でもよく見られる。採集データ：省略。

コガネグモ科 Araneidae

110. ヤマトカナエグモ *Chorizopes nipponicus*
Yaginuma, 1963

体長雌3~4 mm, 雄2~3 mm. 背甲は黒褐色で、腹部背面は褐色ないし黒褐色の地に数対の白点がある。一見ヨツデゴミグモに似るが網を張らず、ほかのクモの網に侵入してクモを捕食する。本州、四国、九州に分布する。第I期調査において吹上御苑からわずかの個体の記録があるが、今期の調査では得られなかった。

111. スズミグモ *Cyrtophora ikomosanensis* (Bösenberg
et Strand, 1906) * (図5-6)

体長雌14~23 mm, 雄3~5 mm. 背甲は銀灰色、腹部は白地に濃黄褐色ないし赤褐色の斑紋がある。本州、四国、九州、南西諸島に分布し、樹林の樹々の間や背丈の高い草の間に大きいドーム状（傘状）の網を張る。南方系の属のクモで、40年前頃までは関東地方ではまったく見られなかったが、最近、各地で見つかっている。都区内の他所では、明治神宮から記録されているが、皇居では初記録。吹上御苑および中道灌濠周辺の限られた場所に多くの個体が見つかっているが、年によって個体数に差がある。

採集記録：1 juv. ♀, 6-VII-2009, 2♀, 1 juv., 29-VII-2009, 吹上御苑（滝見口門近く）；1 juv., 12-VI-2012, 中道灌濠周辺, 小野展嗣採集。

112. ナガコガネグモ *Argiope bruennichii* (Scopoli,
1772)

体長雌20~25 mm, 雄5~10 mm. 背甲は銀白色、腹部は黄色と黒の細い横縞模様があり美しい。全国の平地~低山地に分布し、草の間に白帯のついた円網を張る。水田や耕作地などの人工環境や市街地でも、ある程度の草むらがあればしばしば見られる。採集データ：省略。

113. コガネグモ *Argiope amoena* L. Koch, 1878 *
(図4)

体長雌20~30 mm, 雄5~7 mm. 雌の背甲は銀色、腹部は黄色と黒の太い横縞模様があり美しい、日本を代表するといっても過言ではない種（雄は全

体が灰褐色で別種の趣がある)。樹間や草間に白帯のついた大きい円網を張る。本州、四国、九州、南西諸島に分布する。関東地方では以前は河川敷や草むらによく見られたが、とくに市街地では個体数が減っており、東京都のレッドリストでは本土部および島嶼部で NT (準絶滅危惧)、区部は VU (絶滅危惧 II 類) に指定されている。原因はこのクモの生息に適したいわゆる「藪」環境の衰退と、成虫の餌になる大型昆虫が少なくなっていることによるものと推測される。皇居で本種が発見されたことはたいへん喜ばしく、生息場所ではなるべく草刈りを控えるような管理が望ましい。

採集データ：1♀、4-VIII-2011、中道灌濠周辺(紅葉山斜面)、小野展嗣採集(2012年夏季にも同じ場所で2♀を目撃)。

114. オオトリノフンダマシ *Cyrtarachne inaequalis* Thorell, 1895

体長雌10~13 mm, 雄2~3 mm. 雄は小さく雌とは別種の感がある。雌の腹部はおむすび型で両肩に円錐形の隆起がある。全体に黄色ないし黄褐色。本州、四国、九州、南西諸島に分布し、里山には多いが市街地では稀。昼間は葉裏で動かず、夕暮れ時に樹間や草間に横糸の粘性が強い同心円状の円網を張る。第 I 期調査において吹上御苑および御所からわずかの個体が採集されているが、今期の調査では得られなかった。

115. シロスジシヨウジョウグモ *Hypsosinga sanguinea* (C. Koch, 1844)

体長雌3~5 mm, 雄2~4 mm. 全体が赤色で腹部後方に黒斑のあるものや、黒色で白い正中線のあるものなど色彩、斑紋には変異が多い。全国に分布し、比較的明るい場所の草の間に小さい円網を張る。皇居には数多く生息している。

採集データ：2 juv., 吹上御苑(果樹園), 7-22-XII-2009, 18-25-V-2010, 1 juv. ♂, 1 juv., 道灌新道, 4-11-V-2010, 27-VII-3-VIII-2010, いずれもマレーズトラップによる捕獲。

116. ゴミグモ *Cyclosa octotuberculata* Karsch, 1879

体長雌10~15 mm, 雄8~10 mm. 腹部背面前方に1対、後方に3対の突起がある。全体に赤褐色あるいは黒褐色で、腹部には白線状の複雑な斑紋がある。本州、四国、九州に分布し、比較的明るい場所の草の間に垂直円網を張り、中央部に縦にゴミ

や卵囊などを付ける。市街地にもよく見られ、皇居でも吹上御苑や大道庭園などでしばしば見つか。採集データ：省略。

117. マルゴミグモ *Cyclosa vallata* Keyserling, 1886 *

体長雌4 mm 前後, 雄2~3 mm. ひじょうに小型で、腹部に突起がない。背甲は黒褐色で頭部は明るく、腹部は淡灰褐色の地に黒斑および白斑を有する。本州(南部)、四国、九州に分布し、草の間に水平円網を張り、ゴミを付着させる。西日本に生息する種であったが、最近では東京都でも発見が相次いでいる。皇居でも宮殿近くの道路脇のツツジの植え込みで数個体目撃されたが、採集には至らなかった。

118. ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argenteoalba* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌4~7 mm, 雄3~4 mm. 腹部に突起がない。背甲は黒褐色、腹部は銀色の地に黒斑を有するか、全体が黒い。本州、四国、九州に分布し、草の間に垂直円網を張り、頭部を上にしてとまる。市街地でもよく見られ皇居でも普通種。採集データ：省略。

119. ヨツデゴミグモ *Cyclosa sedeculata* Karsch, 1879

体長雌4~6 mm, 雄3~4 mm. 腹部後端に2対の突起がある。背甲は黒褐色、腹部は褐色の地に黒斑と白斑による複雑な斑紋がある。本州、四国、九州の平地~低山地に分布し、樹木の枝先や草の間に垂直円網を張り、網の中央部に食べかすなどのゴミを付ける。皇居では樹林内の下草などに普通に見られる。採集データ：省略。

120. ワキグロサツマノミダマシ *Neoscona melloteei* (Simon, 1895)

体長雌7~10 mm, 雄6~8 mm. 背甲は淡褐色で両側は暗色、腹部背面は黄緑色で側面は褐色で、前縁の黄色斑の幅が狭い。全国に分布し、平地~低山地の樹間や草間に垂直円網を張る。次種ともども皇居では個体数が多い。成虫は8月から9月にかけて見られる。採集データ：省略。

121. サツマノミダマシ *Neoscona scylloides* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌7~11 mm, 雄7~9 mm. 生息環境、網型は

前種と同様で、外見も前種によく似るが、腹部の側面は緑色で、前縁の黄色斑の幅が広い。成虫は前種よりやや早く7~8月に見られる。本州、四国、九州、南西諸島に分布し、市街地の公園などにも普通。和名は「薩摩の実」とも呼ばれたハゼの果実に似ていることから付けられた。採集データ：省略。

122. ヤマシロオニグモ *Neoscona scylla* (Karsch, 1879)

体長雌9~17 mm, 雄7~12 mm. 背甲は灰褐色ないし褐色, 腹部背面は茶褐色で後方に黒褐色の葉状斑のある個体が多いが, 全体が灰褐色や黒褐色のもの, 大きい白斑を伴うものなど, 色彩や模様にも多様な変異がある。全国に分布し, 平地~低山地の樹間や草間に垂直円網を張る。皇居でも個体数が多い。採集データ：省略。

123. コゲチャオニグモ *Neoscona punctigera* (Doleschall, 1857)

体長雌8~15 mm, 雄7~10 mm. 全体に黄褐色ないし淡褐色で, 腹部に顕著な斑紋がない。本州以南の各地に分布し, 平地~低山地の樹間や草間に垂直円網を張る。皇居では稀で, 第I期調査において吹上御苑で1個体が採集されているが, 今期の調査では確認できなかった。

124. コガネグモダマシ *Larinia argiopiformis* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌7~12 mm, 雄6~8 mm. 細長い感じのクモで, 全体に淡黄褐色で, 腹部中央に明るい縦斑がある。全国に分布し, 平地~低山地の草間に垂直円網を張る。第I期調査において中道灌濠周辺で1個体が採集されているが, 今期の調査では確認できなかった。

125. キザハシオニグモ *Gibbaranea abscissa* (Karsch, 1879)

体長雌6~10 mm, 雄5~8 mm. 背甲は褐色ないし黒褐色, 腹部背面は淡褐色で前縁は幅広く暗色。北海道, 本州, 四国, 九州に分布し, 耕作地などでも見られる。第I期調査において吹上御苑で生息が確認されているが, 今期の調査では得られなかった。

126. オニグモ *Araneus ventricosus* (L. Koch, 1878)

体長雌17~25 mm, 雄15~20 mm. 全体が灰褐色ないし黒褐色の大型のクモ。全国に分布し, 平地~低山地の樹間に夜間, 垂直円網を張る。市街地でもよく見られ, 夜間, 軒下で燈火に集まる昆虫を食べる。都区部では東京オリンピックを境に都市化に伴って減少し, 市街地では最近はあまり見られなくなった。皇居では安定的に生息しており, 今期の調査でも, 大道庭園などで網を多数確認したが採集は控えた。

採集データ：2 juv., 吹上御苑 (観瀑亭周辺), 2-VI-2011, 初芝涼採集。

127. マルヅメオニグモ *Araneus semilunaris* (Karsch, 1879)

体長雌5~7 mm, 雄4~5 mm. 比較的小型のオニグモで, 全体が黒褐色で, 腹部背面の前縁は淡褐色。北海道, 本州, 四国, 九州に分布する。山地に多く, 市街地では稀。第I期調査において吹上御苑で数個体が採集されているが, 今期の調査では確認できなかった。

128. アオオニグモ *Araneus pentagrammicus* (Karsch, 1879) *

体長雌9~11 mm, 雄5~6 mm. 背甲は黄褐色, 腹部背面は薄い水色で前方に1対の暗色斑がある。本州, 四国, 九州の平地~低山地に分布し, 市街地でも見られる。低木や植え込みの葉の表面に糸で造った膜状の住居のついたキレ網を張る。網糸は日中, 金色に輝く。皇居初記録。

採集データ：1♀, 4-VIII-2011, 1 juv., 21-VIII-2012, 吹上御苑 (果樹園), 水山栄子採集。

129. ビジョオニグモ *Araneus mitificus* (Simon, 1886)

体長雌8~10 mm, 雄5~6 mm. 形態, 生態ともに前種に似るが, 腹部背面は白色の地に中央前方に大きい黒斑, 後方にも黄線で区切られた黒色の横条がある。北海道, 本州, 四国, 九州の平地~低山地に分布する。市街地でも公園や人家の庭木にしばしば見られるが, 皇居での発見頻度は小さく, 第I期調査では吹上御苑から1個体記録されたのみであった。今期の調査でも得られたのは以下の1個体のみ。

採集データ：1♀, 吹上御苑 (観瀑亭周辺), 21-IX-2010, 1 juv., 4-VIII-2011, 1 juv., 12-VI-2012, 1♀, 21-VIII-2012, 吹上御苑 (果樹園), 小野展

嗣・渡邊芳美採集.

130. カラオニグモ *Araneus tsurusakii* Tanikawa, 2001

体長雌4~6 mm, 雄3~4 mm. 背甲は淡赤褐色, 腹部背面は黄褐色で淡色の複雑な模様がある. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布し, 樹木の枝先や草間に円網を張る. 市街地の公園などでもよく見られ, 皇居でも数多い. 採集データ: 省略.

131. ハツリグモ *Acusilas coccineus* Simon, 1895 *

体長雌8~10 mm, 雄5~6 mm. 体は細長く円筒形で, 全体に橙色ないし赤褐色. 本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布する. 草間に円網を張り, 和名の通り中心に枯れ葉を吊るして中に潜む. 耕作地やよく市街地でも見られるが皇居からは今回が初記録.

採集データ: 1 juv. ♂, 吹上御苑 (観瀑亭), 11-XI-2011, 水山栄子採集.

132. ゲホウグモ *Poltyx illepidus* C. Koch, 1843 *

体長雌10~17 mm, 雄2~3 mm. 背甲は赤褐色ないし黒褐色, 腹部は褐色の地に黒色や白色の複雑な斑紋がある. 腹部に多数の瘤状の突起を有するが, 形には変異がある. 本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布し, 市街地の公園などでもしばしば見られるが, 体が木の枝の瘤とよく似ているので昼間は見つけるのが難しい. 樹間に夜間, 垂直円網を張る. 皇居初記録.

採集データ: 1 juv., 28-X-2011, 吹上御苑 (観瀑亭), 小野展嗣採集.

コマチグモ科 Chiracanthiidae

133. カバキコマチグモ *Chiracanthium japonicum* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄10~15 mm. 雌の背甲は灰褐色, 腹部は濁緑黄色で濃淡による不明瞭な斑紋が認められる. 雄は背甲が橙色で腹部も淡色. 雌雄とも上顎は黒い. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 狩猟性. 雌はススキの葉を巻いて産室を作る. 在来種の中では毒性が強い. 第I期調査で吹上御苑や中道灌漑の周辺からわずかの個体が記録されているのみで, 今期の調査では見つからなかった. コマチグモ類の生息に適した環境は皇居内では少ない.

134. ヤマトコマチグモ *Chiracanthium lascivum* Karsch, 18979

体長雌雄8~12 mm. 形態, 習性とも前種によく似るが, やや小型. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布し, 里山の耕作地や水田などでも普通に見られる. 第I期調査では吹上御苑および上道灌漑周辺で生息が確認されている.

採集データ: 6 juv., 吹上御苑 (果樹園), 16-VII-10-IX-2009, 1♀, 吹上御苑 (観瀑亭流れ左岸), 14-21-VI-2011, マレーズトラップによる捕獲.

135. ヤサコマチグモ *Chiracanthium unicum* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄5~8 mm. 雌雄とも背甲は淡緑褐色, 腹部は濃黄色. 本州, 四国, 九州に分布し, 水田や市街地でも見られる. 第I期調査で吹上御苑から1個体が採集されているのみである.

シボグモ科 Ctenidae

136. シボグモ *Anahita fauna* Karsch, 1879 *

体長雌9~10 mm, 雄7~8 mm. 背甲は黄褐色で1対の暗色縦条があり, それに挟まれた正中中部は明るい. 腹部は黄褐色で一部が途切れた1対の暗色縦条がある. 雄はやや暗色で縦条が目立つ. 全国に分布し, 耕作地や市街地の公園などの草原に普通. 地表や下草上を歩き回って獲物を狩る. 第I期およびモニタリング調査では発見されなかったが, 今回初めて確認された. 個体数は多くない.

採集データ: 1♀, 道灌新道, 29-VI-4-VII-2010, マレーズトラップによる捕獲; 2 juv., 28-X-2011, 1 juv., 17-IV-2012, 1 juv.♀, 25-VII-2012, 吹上御苑 (果樹園), 水山栄子・渡邊芳美採集.

ミヤマシボグモ科 Zoridae

137. イタチグモ *Prochora praticola* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄5~9 mm. 背甲は茶褐色, 腹部は黒褐色で不明瞭な明色斑を備える. 幼虫は淡色で, 腹部は黄褐色の地に黒色斑を有する. 全国に広く分布し, 落葉層に普通に見られる. 皇居でもほぼ全域の土壌資料から得られ, 個体数も多い. 採集データ: 省略.

エビグモ科 Philodromidae

138. シャコグモ *Tibellus japonicus* Efimik, 1999

体長雌雄5~10 mm (雄はやや小型). 雌雄とも体は淡黄褐色で, 背甲から腹部背面にかけて褐色の縦条がある. 本州, 四国, 九州に分布する. 林縁の草むらや草原に普通に見られ, 市街地にも適応している. 皇居でも個体数が多い. 採集データ: 省略.

139. アサヒエビグモ *Philodromus subaureolus* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄4~7 mm. 雌雄とも体は淡黄褐色ないし灰色で, 背甲の両側は黒褐色, 腹部背面には不明瞭な暗色斑がある. 全国に広く分布する. 網を張らず, 樹木の葉上や草間を徘徊する. 盛んに糸を出して飛行し, 樹間を移動する. 採集データ: 省略.

140. キンイロエビグモ *Philodromus auricomus* L. Koch, 1878

体長雌雄7~9 mm. 雌雄とも色彩に2型あり, 体全体が褐色の個体と腹部背面が白色の個体がある. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 前種より大型で, 樹木の葉上を徘徊する. 市街地でも街路樹や木立に普通に見られる. 採集データ: 省略.

141. キハダエビグモ *Philodromus spintarsis* Simon, 1895

体長雌雄4~6 mm. 体は扁平で, 全体に黒褐色ないし濃灰色. 全国に広く分布し, 都市の公園等にも生息する. 樹木の幹の上を徘徊し獲物を捕食する. 採集データ: 省略.

ワシグモ科 Gnaphosidae

142. シノノメトンビグモ *Hitobia asiatica* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄4~8 mm. 体は黒色で, 腹部背面の前縁および後部は白色. 本州, 九州に分布し, 樹林の地表や植物上を徘徊する. 第I期調査で吹上御苑から記録がある.

採集データ: 1♀, 1♂, 生物学研究所田圃, 29-VI-6-VII-2010, マレーズトラップによる捕獲; 1 juv. ♀, 生物学研究所周辺(オオタカの巣), 8-VII-2013, 西海功採集.

143. ナミトンビグモ *Sanitubius anatoricus* (Kamura, 1989)

体長雌雄4~7 mm. 体は全体に黒褐色で斑紋を欠く(生時は全体が濃灰色に見える). 本州, 四国, 九州に分布し, 市街地でも見られる. 樹林や草原の地表や下草上で見つかる. モニタリング調査で吹上御苑から記録されている.

採集データ: 1♂, 吹上御苑(観瀑亭), 25-VII-2012, 小野展嗣採集.

144. ホシジロトンビグモ *Sergiolus hosiziro* (Yaginuma, 1960)*

体長雌雄5~8 mm. 体は黒色で, 腹部背面の前縁および後部に白色横条, また中央部に1対の白斑がある. 北海道, 本州に分布し, 市街地の公園などにも見られる. 皇居初記録.

採集データ: 1♀, 生物学研究所田圃, 17-24-VIII-2010, マレーズトラップによる捕獲.

カニグモ科 Thomisidae

145. ワカバグモ *Oxytate striatipes* L. Koch, 1878

体長雌雄7~12 mm (雄はやや小型). 雌雄とも体は淡緑色で, 歩脚の一部や頭部が赤みを帯びる個体もある. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 樹上や草間に生息し, 葉上で獲物を待ち伏せする. 市街地の街路樹などでも普通に見られる. 採集データ: 省略.

146. セマルトラフカニグモ *Tmarus rimosus* Paik, 1973

体長雌5~8 mm, 雄4~6 mm. 体は灰色ないし黄褐色で暗色の小斑を有し, 腹部背面の中央に明るい縦条がある. 北海道, 本州, 四国, 九州の平地~低山地に分布する. 草間に見られ, 草の茎に頭を下にしてとまる. 採集データ: 省略.

147. コカニグモ *Coriarachne fulvipes* (Karsch, 1879)

体長雌雄3~5 mm. 雌雄とも体は一樣に褐色ないし黒褐色で, 背甲には光沢がある. 樹上に生活し, 非常に扁平な体で樹皮下に潜む. 幼虫は落葉層からも得られる. 本州, 四国, 九州の平地~低山地に分布し, 市街地の公園などでも普通に見られる. 採集データ: 省略.

148. キハダカニグモ *Bassaniana decorata* (Karsch, 1879)

体長雌雄4~8 mm. 全体に褐色ないし黒褐色で、腹部に斑紋を欠く個体と顕著な白い斑紋を有する個体がある。樹上に生活するが、地表や落葉層でもしばしば採集される。全国に分布し、市街地の街路樹などでもよく見られる。採集データ：省略。

149. ヤミイロカニグモ *Xysticus croceus* Fox, 1937

体長雌5~10 mm, 雄4~7 mm. 体は黄褐色ないし褐色で、背甲の両側に黒褐色の縦条があり、腹部には暗色の横条と白線がある。雄は黒っぽい。北海道、本州、四国、九州の平地~低山地に分布し、草むらの地表や下草の上で獲物を待ち伏せする。成虫は春から初夏にかけて出現し、幼虫は夏から秋にかけて成長しそのまま越冬する。市街地の公園や空き地の草上によく見られ、皇居でもひじょうに個体数が多い。採集データ：省略。

150. ヨコフカニグモ *Xysticus trasversomaculatus* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌 5~8 mm, 雄 3~4 mm. 前種と外見はたいへん良く似ているが、やや淡色で小型。北海道、本州、九州に分布するが、生息は局地的で個体数は少ない。河川敷や湿原、草原などの草地を好む。東京都のレッドリストでは本土部および島嶼部でDD (情報不足)、区部ではNT (準絶滅危惧) に指定されている。吹上御苑から記録があるが、今期の調査では採集されなかった。

151. ゾウシキカニグモ *Xysticus saganus* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌5~10 mm, 雄3~6 mm. オオヤミイロカニグモは異名。背甲は暗褐色で光沢があり、腹部は褐色ないし黒褐色で両側の暗色斑は不明瞭。北海道、本州、四国、九州に分布し、草むらの地表を徘徊する。成虫は夏季に出現する。第I期調査では皇居各所から多数採集されたが、今期の調査ではまったく見られなかった。大きく個体数が減った種のひとつである。

152. オビボソカニグモ *Xysticus trizonatus* Ono, 1988

体長雌5~9 mm, 雄4~6 mm. 背甲は黄褐色で黒い側条があり、両側は濃い飴色、腹部は暗褐色の地に黒線や白点による明瞭な斑紋がある。北海道、

本州、四国、九州に分布するが、採集される頻度はきわめて小さい。東京都のレッドリストでは本土部 (区部を含む) および島嶼部でDD (情報不足) に指定されている。第I期調査で吹上御苑から数個体採集されているが、今期の調査では見つからなかった。

153. チシマカニグモ *Xysticus kurilensis* Strand, 1907

体長雌5~8 mm, 雄4~5 mm. ゾウシキカニグモに似るが、背甲は光沢がない。腹部は褐色ないし黒褐色で全体に斑紋が不明瞭。雌の体毛の先端は鈍い。北海道、本州、四国、九州に分布し、山地に樹林に多い。第I期調査で吹上御苑から数個体採集されているが、今期の調査では得られなかった。

154. ニッポンオチバカニグモ *Oxyptila nipponica* Ono, 1985

体長雌雄 2~3 mm. 体はへら状の毛で被われ、全体に黄褐色ないし黒褐色で顕著な斑紋を欠く。全国に分布する (北海道および沖縄では稀)。樹林の落葉層に生息し、雌は1年中成虫が見られる (雄の成虫は夏季には見られない)。皇居の落葉層に普通。採集データ：省略。

155. マツモトオチバカニグモ *Oxyptila matsumotoi* Ono, 1988

体長雌雄 2~3 mm. 前種と同じ環境から採集され、外見もよく似ているが、やや暗色で、背甲に顕著な斑紋があり、腹部にも不鮮明な暗色の横条があるので区別がつく。本州南西部に分布する。皇居では普通に見られるが、前種より個体数は少ない。採集データ：省略。

156. コハナグモ *Diaea subdola* O. Pickard-Cambridge, 1885

体長雌4~8 mm, 雄3~4 mm. 背甲は淡緑色で斑紋を欠く。腹部の色彩、斑紋には変異があるが、黄色ないし黄白色の地に褐色および白色の斑紋を有する個体が多い。全国に分布し、草本の葉や花の上で獲物の昆虫を待ち伏せる。皇居では第I期調査の際には全域で多数見られたが、今期の調査ではひじょうに少なかった。

採集データ：1♀, 吹上御苑 (果樹園), 2~9-VI-2009, 3 juv., 吹上御苑 (観瀑亭流れ左岸), 14~21-IX-2010, 以上マレーズトラップによる捕獲; 1 juv.,

吹上御苑（観瀑亭周辺），28-X-2011，小野展嗣採集。

157. ハナグモ *Ebrechtella tricuspidata* (Fabricius, 1775)

体長雌4~8 mm, 雄2~5 mm. 雌の背甲は緑色で，腹部は黄緑色で中央部に大きい褐色斑がある。雄の背甲は黄褐色で1対の褐色縦条があり，腹部は鮮やかな緑色で斑紋は不明瞭。全国に分布し，草本の葉や花の上で獲物を待ち伏せる。第I期調査の際には全域で多数見られたが，今期の調査では得られなかった。

158. クマダハナグモ *Ebelingia kumadai* (Ono, 1985)

体長雌3~4 mm, 雄2~3 mm. 背甲は淡褐色で暗色斑を伴い，腹部背面は淡褐色の地に数対の黒色斑がある。本州，四国，九州，南西諸島に分布し，林縁の下草や草原に生息する。市街地でもよく見られ，皇居でも普通種。採集データ：省略。

159. ガザミグモ *Pistius undulatus* Karsch, 1879

体長雌8~12 mm, 雄3~6 mm. 全体に黄褐色または褐色で斑紋を欠く。体型は次種に似るが眼域に突起がない。北海道，本州，四国，九州に分布し，草本の上で獲物の昆虫を待ち伏せる。しばしばミツバチのような大きい獲物をしとめる。

採集データ：1 juv., 2-VI-2011, 1 juv. ♂, 17-IV-2012, 1 juv., 21-VIII-2012, 吹上御苑（果樹園）；1 juv., 4-VIII-2011, 4 juv., 25-VII-2012, 中道灌漑周辺，水山栄子・初芝涼採集。

160. アズチグモ *Thomisus labefactus* Karsch, 1881

体長雌6~9 mm, 雄2~3 mm. 雌雄で体の大きさや色彩が著しく異なる。雌は全体が白色ないし淡黄白色で，斑紋を欠く個体や，背甲，腹部背面に多様な黒色斑を有する個体がある。雄は背甲が黒褐色，腹部は赤褐色で斑紋を欠く。本州，四国，九州に分布し，市街地でも数多い。草本の花の陰などで獲物の昆虫を待ち伏せる。採集データ：省略。

フクログモ科 Clubionidae

161. ムナアカフクログモ *Clubiona vigil* Karsch, 1879

体長雌雄8~13 mm. 背甲は黄褐色，腹部は淡紫

褐色で暗色の心臓斑と後方に矢筈状の斑紋がある。北海道，本州，四国，九州に分布し，市街地の街路樹や公園等にも見られ，都区内各地から記録があるが，皇居ではそれほど多くない。今期の調査では採集されなかった。

162. ヤギヌマフクログモ *Clubiona yaginumai* Hayashi, 1989

体長雌雄3~5 mm. 全体が淡緑色の美しいクモ。本州に分布し，ササ原などの草原に生息する。市街地では稀だが，都区内では皇居のほか，白金自然教育園や明治神宮でも記録されている。第I期調査において吹上御苑のササ原で生息が確認されているが，今期の調査では得られなかった。

163. マダラフクログモ *Clubiona deletrix* O. Pickard-Cambridge, 1885 *

体長雌6~7 mm, 雄4~5 mm. 背甲は黄褐色で，頭部は黒い。腹部は灰色ないし淡黄褐色で後方に暗色の山形斑がある。インド~中国原産のクモで，我が国へは人為的に移入されたものと考えられている。本州および九州に分布する。第I期調査およびモニタリング調査では採集されなかったが，今期の調査において各所から多数得られた。採集データ：省略。

164. ヤハズフクログモ *Clubiona jucunda* (Karsch, 1879)

体長雌6~8 mm, 雄4~6 mm. 背甲は黄褐色または灰色，腹部は黄褐色または赤褐色の地に矢筈状の暗色斑のある個体や赤色の縦条のある個体，斑紋を欠く個体など変異がある。全国に分布する普通種で，林内や草原など多様な環境から得られる。採集データ：省略。

165. ハマキフクログモ *Clubiona japonicola* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄6~10 mm. 全体に淡黄褐色または灰褐色。北海道，本州，四国，九州に分布し，湖沼や川辺に生えるヨシなどの草原に生息する。第I期調査において蓮池濠や中道灌漑の周辺から記録されているが，今期の調査では得られなかった。

166. トビイロフクログモ *Clubiona lena* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄6~8 mm. 背甲は黄褐色ないし褐色で，

腹部は淡赤褐色。本州，四国，九州に分布する。林縁の下草や草原に生息する。

採集データ：3♂，4-12-V-2011，1♀，21-30-VI-2011，吹上御苑（観瀑亭流れ左岸），マレーズトラップによる捕獲。

167. ヨモギフクログモ *Clubiona neglectoides* Bösenberg et Strand, 1906 *

体長雌雄5-6 mm. 全体に淡黄褐色で斑紋を欠く。本州および九州に分布する。里山の草原に生息し，市街地では稀。皇居初記録。

採集データ：1♂，吹上御苑（観瀑亭流れ左岸），30-VI-5-VII-2011，マレーズトラップによる捕獲。

ネコグモ科 Corinnidae

168. ネコグモ *Trachelas japonicus* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄2-4 mm. 背甲は暗赤褐色，腹部は灰褐色ないし黒褐色で，斑紋を欠く個体が多いが不明瞭な淡色斑を有する個体もある。北海道，本州，四国，九州に分布し，市街地の庭木などでもしばしば見られる。樹木や草本の葉上を歩き回る。

採集データ：1 juv.，吹上御苑（果樹園），17-IV-2012，1 juv.，吹上御苑（観瀑亭周辺），28-X-2011，水山栄子・小野展嗣採集。

169. オトヒメグモ *Orthobula crucifera* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄2 mm 前後。背甲は光沢のある暗赤褐色，腹部は灰褐色（雌）ないし光沢のある赤褐色（雄）で，いずれも形は不明瞭な暗色斑を有する。本州，四国，九州，南西諸島に分布し，落葉層や樹木の根元付近で見つかる。皇居では見つかる頻度が低い。

採集データ：1♀，吹上御苑（地主山），22-I-2010，石井清ほか採集（土壌動物調査）；1 juv.，4-VIII-2011，1♀，12-VI-2012，吹上御苑（果樹園），初芝涼・小野展嗣採集。

170. ウラシマグモ *Phrurolithus nipponicus* Kishida, 1914

体長雌雄3-4 mm. 背甲は褐色，腹部は濃灰褐色で，白色横斑がある。本州，四国，九州の平地～低山地に分布し，地表の落葉層を徘徊する。市街地でもよく見られ皇居でも落葉層に数が多い。採

集データ：省略。

171. ヤバネウラシマグモ *Phrurolithus pennatus* Yaginuma, 1967

体長雌雄3-5 mm. 雌雄とも前種によく似るが，やや大きく，腹部や歩脚の明色部がより明瞭で光沢を放つ。北海道，本州，四国，九州に分布し，習性や生息環境は前種と同様だが，個体数は前種より少ない。採集データ：省略。

172. コムラウラシマグモ *Otachilia komurai* (Yaginuma, 1952)

体長雌雄3-5 mm. 背甲および歩脚は黄褐色ないし赤褐色，腹部は乳白色で大きい黒褐色の斑紋がある。本州および九州に分布し，地表の落葉層や下草上を徘徊する。前2種より行動範囲が広く，草むらのスウィーピングやマレーズトラップでもしばしば捕獲される。採集データ：省略。

ハエトリグモ科 Salticidae

173. ヤサアリグモ *Myrmarachne inermichelis* Bösenberg et Strand, 1906

体長雌雄4-6 mm. 体は細長く，光沢のある黒色でアリに似る。雄の上顎は強力で，前方へ突き出る。本州以南に分布し，狩猟性で，草本の葉上に見られる。採集データ：省略。

174. アリグモ *Myrmarachne japonica* (Karsch, 1879)

体長雌雄6-8 mm. 体はアリに似る。前種より大型で，頭胸部は黒色，腹部は濃い灰色の地に不明瞭な斑紋がある。習性は前種と同様。全国に分布し，皇居でも樹上に普通に見かける。採集データ：省略。

175. モンシロコゲチャハエトリ *Sitticus fasciger* (Simon, 1880)

体長雌雄4 mm 内外。体は褐色ないし灰黒色，腹部後方に1対の淡色斑がある。北海道および本州に分布し，主に市街地で見つかる。皇居ではモニタリング調査で1個体が得られているのみである。

176. ネコハエトリ *Carrhotus xanthogramma* (Latreille, 1819)

体長雌雄10 mm 内外。背甲は褐色ないし黒色，

腹部は黒褐色で多くの部分が白毛に被われるので、全体に白色の地の中央部に黒い斑紋があるように見える。北海道、本州、四国、九州に分布する。植え込みや草本の葉上に生息し、皇居でも個体数は多い。採集データ：省略。

177. コジャバラハエトリ *Helicius cylindratus* (Karsch, 1879)

体長雌雄3~5 mm. 全体に淡褐色で腹部背面に数本の淡色の横縞がある。本州および九州に分布する。低木や下草の葉上などを歩き回る。第1期調査では吹上御苑で生息が確認されている。

採集データ：1 juv., 吹上御苑（観瀑亭周辺）、21-VIII-2012；1♂, 中道灌濠周辺、12-VI-2012, いずれも渡邊芳美採集。

178. ジャバラハエトリグモ属の1種 *Helicius* sp. * (図18~22)

体長雄2.8 mm. 体色や斑紋（図18）は前種によく似るが、触肢器官の構造はむしろチクニハエト

リ *Helicius chikunii* (Logunov et Marusik, 1999) に近い。しかし、既知種のいずれとも、触肢器官の細部や、脛節の突起（図20-21）が違うほか、腿節の基部に硬化した溝を有することが特異である。日本未記録か新種の可能性があり現在精査中。

採集データ：1♂, 25-VII-2012, 吹上御苑（果樹園～観瀑亭）、水山栄子採集

179. アオオビハエトリ *Siler vittatus* (Karsch, 1879)

体長雌5~7 mm, 雄4~6 mm. 雌雄とも全体に光沢のある暗緑色で腹部背面に幅の広い黒色横条がある。本州以南に分布する。食蟻性でアリの巣の近くに生息する。

採集データ：3 juv., 吹上御苑（果樹園）、21-VIII-2012, 水山栄子採集；1♀, 吹上御苑（観瀑亭流れ）、4-8-VIII-2011, マレーズトラップによる捕獲；1♀, 4-VIII-2011, 2 juv., 21-VIII-2012, 中道灌濠周辺、水山栄子・渡邊芳美採集。

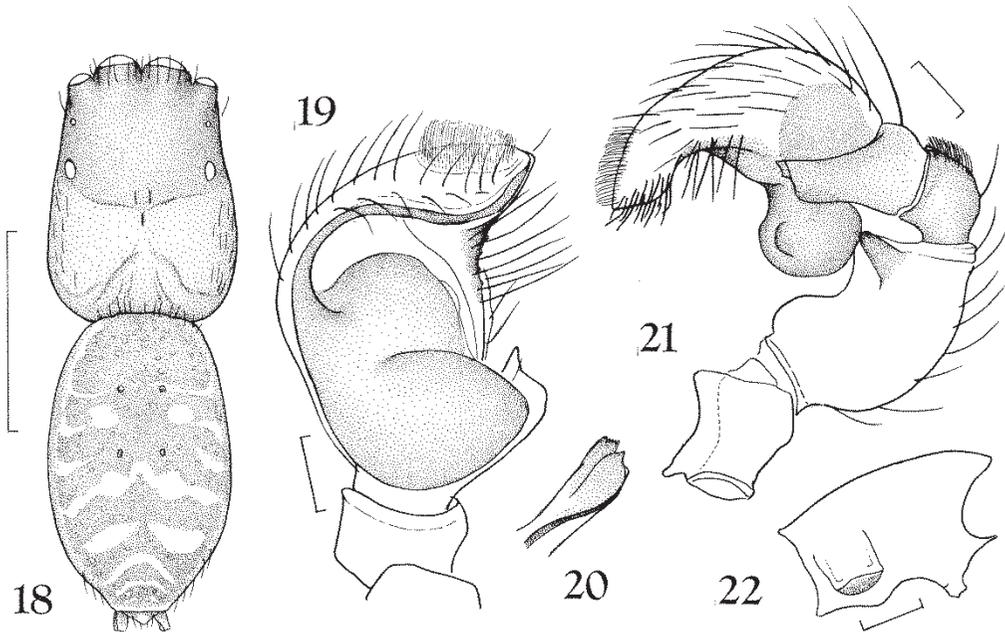


図18-22. ジャバラハエトリグモ属の1種 *Helicius* sp., ♂成虫. --- 18, 頭胸部および腹部（背面）； 19, 触肢器官（腹面）； 20, 触肢脛節の後側面突起（RTA）の先端部（先端よりの前側面）； 21, 触肢（後側面）； 22, 触肢腿節およびその基部にある溝（前側面）。[スケール：18, 1 mm；19-22, 0.1 mm.]

180. チャイロアサヒハエトリ *Phintella abnormis* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄5~7 mm. 体は淡緑褐色ないし黄褐色で、背甲および腹部背面に暗色斑がある。北海道、本州、四国、九州に分布する。同属には近似種が数多いが、これまでに皇居で確認されているのは本種のみである。皇居全域の低木や草の上に普通に見られる。採集データ：省略。

181. デーニッツハエトリ *Plexippoides doenitzi* (Karsch, 1879)

体長雌雄7~9 mm. 全体に淡緑褐色で、腹部両側に橙黄色の縦条がある。雄は雌より濃色。北海道、本州、四国、九州に分布し、平地~低山地の草間に見られる。市街地の緑地にも見られ、皇居でも普通。採集データ：省略。

182. ミスジハエトリ *Plexippus setipes* Karsch, 1879 *

体長雌7~9 mm, 雄5~7 mm. 雌雄で別種の感がある。雌は全体に濃黄褐色ないし褐色で、腹部背面中央部は淡色（1対の幅の広い暗色縦条があるように見える）。雄は灰色で、背甲および腹部背面にそれぞれ1対の幅広い黒色縦条および頭部に橙色の横帯がある。本州、四国、九州の温暖な地域に生息する。市街地に多く、都区内各所で見られるが、皇居では今回が初記録。

採集データ：1♀, 1 juv. ♂, 25-VII-2012, 吹上御苑（果樹園~観瀑亭）、水山栄子採集。

183. マミジロハエトリ *Evarcha albaria* (L. Koch, 1878)

体長雌雄5~8 mm. 背甲は黒色、腹部は黄褐色ないし灰色。雄の頭部前縁および触肢の末節に白毛を密生する。北海道、本州、四国、九州に分布し、平地~低山地の樹木や草本の葉上に普通に見られる。採集データ：省略。

184. シラヒゲハエトリ *Menemerus brachygnathus* (Thorell, 1877) *

体長雌雄5~9 mm. 体は灰色で平べったく、背甲の側縁は黒色。南方系で本州以南に分布し、市街地でも建物の外壁や塀などによく見られる。皇居ではこれまで記録がなかったが、今期の調査で発見された。

採集データ：1♂, 1 juv., 生物学研究所（温室の外壁）、25-VII-2012, 小野展嗣採集。

185. ヨダンハエトリ *Marpissa pulla* (Karsch, 1879)

体長雌雄6~10 mm. 成虫の背甲は黒色、腹部は黄褐色あるいは灰色の地に4段の橙色の横条がある。雄の頭部前縁は鮮やかな橙色で、触肢末節に白毛を密生する。幼虫はまったく別種の感がある。北海道、本州、四国、九州に分布する。樹木や草本の葉上に見られ、市街地でも公園の植え込みや庭木上などで見つかる。

採集データ：1♀, 吹上御苑（観瀑亭流れ）、26-VII-4-VIII-2011, マレーズトラップによる捕獲；1 juv., 中道灌漑周辺、28-X-2011, 水山栄子採集；1♂, 12-VI-2012, 1♀, 28-X-2011, 吹上御苑（果樹園）、渡邊芳美・小野展嗣採集。

186. オスクロハエトリ *Mendoza canetrinii* (Ninni, 1868)

体長雌雄6~10 mm. 雌雄で色彩がまったく違う。雌成虫の背甲は銀白色、腹部は淡黄褐色の地に1対の褐色の縦帯があり、それに挟まれた中央部は銀白色。雄の背甲は黒色で、腹部は濃褐色ないし黒色。北海道、本州、四国、九州に分布する。草原のススキなどの葉上に生息し、皇居では吹上御苑やお濠の周辺で見られるが個体数は多くない。

採集データ：1 juv. ♀, 4-VIII-2011, 1 juv., 21-VIII-2012, 中道灌漑、水山栄子・小野展嗣採集。

187. ヤハズハエトリ *Mendoza elongata* (Karsch, 1879)

体長雌雄6~11 mm. 雌成虫は前種に酷似するが、雄成虫の腹部は黒色の地に明瞭な白色の矢筈状斑がある。全国に分布する。ススキやヨシなどの葉上に生息し、皇居では上道灌漑周辺で記録がある。今期の調査では本種らしき幼虫が得られているが成虫は確認できなかった。

188. カラスハエトリ *Rhene atrata* (Karsch, 1881)

体長雌雄5~8 mm. 雌雄とも背甲は幅広く、上から見て丸い。色彩は雌雄で異なり、雌は全体が灰褐色ないし黄褐色、雄は全体が黒色で、鮮やかな白色斑がある。本州、四国、九州に分布し、草本の葉上に普通に見られる。採集データ：省略。

189. ウデプトハエトリ *Harmochirus insulanus* (Kishida, 1914)

体長雌雄 3~5 mm. 全体に黒色で、腹部前縁と後方に白色斑がある。第1歩脚が強大なのでこの名

がある。本州，四国，九州に分布し，地表や丈の低い草本の葉上に見られる。

採集データ：1♀，29-VII-2009，1 juv.，4-VIII-2011，1♀，1♂，1 juv. ♀，12-VI-2012，吹上御苑（果樹園），小野展嗣・初芝涼・渡邊芳美採集；1♂，中道灌濠周辺，渡邊芳美採集。

190. キレワハエトリ *Sibianor pullus* (Bösenberg et Strand, 1906)

体長雌雄2~4 mm. 前種に似るが，全体に黒色で，腹部の白色斑は無いかあっても不明瞭。北海道，本州，四国，九州に分布し，地表や下草上に見られる。

採集データ：1♀，12-VI-2012，吹上御苑（果樹園），渡邊芳美採集。

191. エキスハエトリ *Laufeia aenea* Simon, 1889

体長雌雄3~4 mm. 全体に暗緑褐色で，背甲および腹部に不明瞭な白色斑がある。本州，四国，九州に分布する。平地~低山地の樹上に見られ，樹皮下に袋状の巣を作る。モニタリング調査で2個体が得られているのみである。

考 察

皇居のクモ類相の特性

東京都23区内の大規模緑地および公園は皇居（千代田区；115万㎡）および皇居外苑（同；115万㎡）をはじめ，水元公園（葛飾区；93万3千㎡），葛西臨海公園（江戸川区；80万㎡），明治神宮（渋谷区；70万㎡），神宮外苑（同；48万6千㎡），代々木公園（同；54万㎡），舎人公園（足立区；61万3千㎡），新宿御苑（新宿区；58万㎡），上野恩賜公園（台東区；54万㎡），赤坂御用地（港区；51万㎡），大井埠頭中央海浜公園（品川区；45万4千㎡），砧公園（世田谷区；39万1千㎡），浜離宮恩賜公園（中央区；25万㎡），石神井公園（練馬区；22万4千㎡），白金自然教育園（港区；20万㎡），和田堀公園（杉並区；20万㎡），善福寺川緑地（杉並区；18万4千㎡），多摩川二子橋公園（世田谷区；17万1千㎡），小石川植物園（文京区；17万㎡），日比谷公園（千代田区；16万1千㎡），芝公園（港区；12万㎡），善福寺公園（杉並区；7万8千㎡），常盤松御用邸（渋谷区；2万㎡）など多数ある。しかし，その多くは球技場などのスポーツ施設やレクリエーション施設などを含む総合公園として管理され，動物学の

見地から森が自然のままあるいはそれに近い形で保持されているのは皇居，明治神宮，自然教育園，小石川植物園など，そのうちのわずかである。

このうち，過去にクモ類の調査が行われ，ある程度まとまった記録が公表されているのは皇居（小野，2000，2001b，2003，2006b），赤坂御用地（小野，2005；Ono，2007），常盤松御用邸（小野・新海，2005），明治神宮（小野，2012，2013c），白金自然教育園（小野・新海，2001；小野，2001a，2013a；久居，2004，2005，2007a，b），日比谷公園（新海，1998），上野公園（小野・水山，2001），石神井公園（荘司，2013）および善福寺公園・善福寺川緑地・和田堀公園（梅林，1978，2003，2008）などである。また，葛飾区（60種+；葛飾区環境課，1992；葛飾区，2013）や板橋区（105種；新海，1986），杉並区（209種；梅林，2008；杉並区，2013）のように記録が公表されている例もある（戦前の記録を除く）。そのほか，大野（1976）はジョロウグモを中心に都心の緑地35カ所のクモ類を調査し106種（場所は特定されていない）を報告している。

以上を総合すると，300種近いクモ類が東京23区から記録されている。東京都全体で600種以上，また環境に優れた八王子市だけで309種（新海，1978）が記録されているので，この数は完全とは言えないが，東京都区部のクモ類の現況をかなり正確に表しているものと考えられる。

モニタリング調査終了時，皇居から165種のクモが記録されていたが（小野，2006），今回26種を追加し，全体の種数を191まで伸ばすことができた。この値は，現在知られている都区内のひとつの緑地のクモ類の種数としては最高であり（2位は自然教育園の184），板橋区全体から知られる種数105の倍に近い。皇居に生息することが予想されながら，まだ発見できていない種も残るので，将来は200種を越えるものと推測されるが，こうした数字を見るだけでも，都心にある皇居の自然が砂漠の中のオアシスと同様にいかに貴重なものであるかわかる。

皇居のクモ相については，これまでに論じてきた通り（小野，2000，2006b，2013c），都区部におけるほかの緑地同様，市街地の中に孤立しており，種構成は，環境が過酷で餌条件も良くない海浜地域（小野，2006a）や陸地から遠く離れた伊豆諸島（小野，2001 d；Ono，2010，2011）と共通点が多い。このことは，皇居に生息するクモ類に ballooning と呼ばれる糸を風に流した空中飛行をして遠隔地

に到達できるものや、少しの緑と餌の昆虫がいれば生きていけるタフな種が多いことから想像できる。

現在皇居で観察される種、あるいは過去に見られた種が常時皇居に生息しているかということ、そうではなく、種ごとの生息状況には年を経た変動が見られる。本格的な調査が行われるようになってからの15年というわずかな間にも、種によっては個体数が増えたり減ったりし、極端な例では皇居内では絶滅してしまったのではないかと推測されるものもある。糸による飛行や乾燥に強く体が微小なため砂塵とともに風に乗って飛来する可能性のあるクモは遠い多摩丘陵や丹沢などからでも常に補充が可能である。しかし、もっぱら這って歩く移動能力しか持たない種は、一度絶滅すると、その後は何らかの形で人が持ち込まない限り復活しないかもしれない。今期の調査では全体像を生態学的に有為に表すことはできなかったが、以下にいくつかの視点から見た生息種の多様性を示す。

1. 皇居でよく見られる種（環境、習性の別は任意）

1) 主に樹木の枝葉上や樹皮下に生活する種：ミヤグモ、シャラクダニグモ、カレハヒメグモ、キンイロエビグモ、キハダエビグモ、ワカバグモ、コカニグモ、キハダカニグモ、エキスハエトリ

2) 樹間や草間に造網する種（居候性・食蛛性を含む）：ヒナハグモ、マネキグモ、カタハリウズグモ、クサグモ、コクサグモ、チビアカサラグモ、ハラジロムナキグモ、ムナボシヒメグモ、カグヤヒメグモ、ヒメグモ、シロカネイソウロウグモ、チリイソウロウグモ、フタオイソウロウグモ、カニミジグモ、オオシロカネグモ、コシロカネグモ、アシナガグモ、ジョロウグモ、ゴミグモ、ギンメッキゴミグモ、ヨツデゴミグモ、ワキグロサツマノミダマシ、サツマノミダマシ、ヤマシロオニグモ、カラオニグモ

3) 草間で狩りをする狩猟性の種：ササグモ、シャコグモ、アサヒエビグモ、ヤミイロカニグモ、クマダハナグモ、アズチグモ、マダラフクログモ、ヤハズフクログモ、ヤサアリグモ、アリグモ、ネコハエトリ、チャイロアサヒハトリ、デーニッツハエトリ、マミジロハエトリ、ヨダンハエトリ、カラスハエトリ

4) 地表（樹林や草むらの地表や草の根元）で狩りをする種：イオウイロハシリグモ、チビコモ

リグモ、ヒノマルコモリグモ、ハラクロコモリグモ、ハリゲコモリグモ、アオオビハエトリ、ウデブトハエトリ

5) 樹林の落葉層および地中に生息する土壌性（広義）の種（造網性、狩猟性を含む）：キシノウエトタテグモ、タイリクカレハグモ、コタナグモ、スガナミヤマジコナグモ、テングヌカグモ、フタエツノヌカグモ、コデーニッツサラグモ、タテヤマテナガグモ、スネグロオチバヒメグモ、イタチグモ、ニッポンオチバカニグモ、マツモトオチバカニグモ、ウラシマグモ、ヤバネウラシマグモ

6) 水辺に多い種（造網性、狩猟性を含む）：キクヅキコモリグモ、メガネドヨウグモ、ヤサガタアシナガグモ

7) 建造物の外壁や屋内に生息する種：チリグモ、ヒラタグモ、ネコハグモ、オオヒメグモ

2. 都区内の他の緑地や周辺の里山で比較的普通に見られるが皇居では少ない種

1) 樹上性：ムナアカフクログモ

2) 造網性：ユウレイグモ、オウギグモ、ヤマヤチグモ、ハタケグモ、ザラアカムネグモ、バラギヒメグモ、オナガグモ、ナガコガネグモ、オトリノフンダマシ

3) 草間狩猟性：カバキコマチグモ、コハナグモ、ハナグモ、コジャバラハエトリ

4) 地表狩猟性：アズマキシダグモ、アライトコモリグモ、ウヅキコモリグモ、ゾウシキカニグモ

5) 土壌性・地中性：ジグモ、カネコトタテグモ、ナルトミダニグモ、ナミハグモ、イマダテテングヌカグモ、ノコギリヒザグモ、ヤマトコノハグモ、ハンゲツオスナキグモ

6) 水辺：キバラコモリグモ

7) 建造物：シモングモ、ユカタヤマシログモ

3. 生息の可能性のある未発見の種

1) 樹上性：イナヅマハエトリ、ウススジハエトリ

2) 造網性：トウキョウウズグモ、ユノハマサラグモ、ヤホシヒメグモ、マダラヒメグモ、ムラクモヒシガタグモ、ムナグロヒメグモ、サトヒメグモ、クロマルイソウロウグモ、ヤマジドヨウグモ、ヒメアシナガグモ、コガタコガネグモ、ヤマトゴミグモ、サガオニグモ、カラフトオニグモ、ヤミイロオニグモ

3) 草間狩猟性：アシナガコマチグモ，トラフカニグモ，ヒメフクログモ，シラホシコゲチャハエトリ，マツモトハエトリ，マガネアサヒハエトリ，メガネアサヒハエトリ，メスジロハエトリ

4) 地表狩猟性：エビチャコモリグモ，カガリビコモリグモ，コアシダカグモ，メキリグモ

5) 土壌性・地中性：ワスレナグモ，ヤマトカレハグモ，メガネヤチグモ，ヨロイヒメグモ

6) 水辺：ヨリメグモ

7) 建造物：オキツハネグモ，イエユウレイグモ，ズグロオニグモ，イエオニグモ，アシダカグモ，アダンソンハエトリ，チャスジハエトリ

4. 第Ⅰ期調査（1996～2000に実施）との比較で個体数の増減が際立った種

1) 減少傾向にある種：ヤマトマシラグモ，カレハグモ，ゾウシキカニグモ，ハナグモ，コハナグモ，ヤギヌマフクログモ，ムナアカフクログモ

2) 増加傾向にある種：タイリクカレハグモ，フタオイソウウグモ，クマダハナグモ，マダラフクログモ

増えた種も減った種も土壌性，草原性そして狩猟性のものが多い。いずれも，生息環境自体は安定しているので原因は不明だが，互いに同じような場所に生息するカレハグモとタイリクカレハグモ，ハナグモとクマダハナグモ，ムナアカフクログモとマダラフクログモには何らかの種間関係が介在しているものかもしれない。フタオイソウウグモは居候性・食蛛性の種，またマダラフクログモは外来種である。

5. 保護上重要な種

皇居から記録された191種のうち以下の7種は，環境省自然環境局野生生物課が編纂しているレッドリスト『日本の絶滅のおそれのある野生生物』（環境省，2012），および東京都環境局自然環境部が編纂した『東京都の保護上重要な野生生物種』本土部版（小野，2010；解説版は2013 b）において「保護上重要な種」に該当する（本項では島嶼部（小野，2011）は除外する）。略号：VU（絶滅危惧Ⅱ類），NT（準絶滅危惧），DD（情報不足）；ただし，環境省と東京都ではその判断基準にわずかな違いがある場合がある。

1) カネコトタテグモ（カネコトタテグモ科）

環境省レッドデータ NT. 東京都レッドリスト本土部全体 NT・区部 VU.

2) キシノウエトタテグモ（トタテグモ科）

環境省レッドデータ NT. 東京都レッドリスト本土部全体 NT・区部 VU.

3) ヤマトマシラグモ（マシラグモ科）

東京都レッドリスト本土部全体 DD・区部 VU.

4) ドウシグモ（ハウシグモ科）

環境省レッドデータ DD. 東京都レッドリスト本土部全体 NT・区部 VU.

5) コガネグモ（コガネグモ科）

東京都レッドリスト本土部全体 NT・区部 VU.

6) ヨコフカニグモ（カニグモ科）

東京都レッドリスト本土部全体 DD・区部 NT.

7) オビボソカニグモ（カニグモ科）

東京都レッドリスト本土部全体 DD・区部 DD.

このうち，キシノウエトタテグモは皇居の林内に多産するので，現況では保護の必要はないと思われる。また，ヨコフカニグモは明るい草原に生息するもので，濠沿いの芝生のような環境が生息に適しており，草刈りの影響をそれほど受けていないと考えられる。同じカニグモでもオビボソカニグモは稀産種で，発見される頻度が低い。もともと森林棲なので皇居の環境は本種の生息には適していると考えられる。ドウシグモも同様に高木が伐採されずこのままの環境が維持されれば問題ないと思われる。コガネグモは雌が多数の卵を産み，分散能力にも優れているので，餌条件の良いいわゆる藪のような草原環境が整備されれば，今後増えることが予想される。一方，カネコトタテグモおよびヤマトマシラグモは移動能力が小さいので，今後の生息が懸念される。

このほか，特筆すべきなのはスズミグモ（コガネグモ科），タイリクカレハグモ（ハグモ科）およびジャバラハエトリグモ属の1種（ハエトリグモ科）の3種である。

スズミグモは本州南部以南から台湾にかけて分布する南方系のクモで，1980年頃までは関東地方ではまったく見られなかったが，徐々に発見地が東上し，最近では関東地方の各地で散見されるようになった。皇居で初めて発見されたのは2009年の7月である。それ以来，個体数の変動はあるが，2012年まで継続して目撃されている。また，明治神宮での最初の目撃記録は2001年（小野，2013b），白金自然教育園では2006年（久居，2007）である。本種の生息地は全国的に見ても一様でなく，里山の耕作地にひじょうに多くの個体が見られることがある一方，山間のよりよい環境にもかかわらず

まったくいない地域も多くあり、いわゆる局地的な分布を示す。大型種のため市街地の緑地では餌条件がよくないと考えられるが、元来、繁殖能力および移動能力は高い。

タイリクカレハグモは中国安徽省黄山市休寧県にある斉云山（属名の由来；標高800 m程度の低山地）から Song and Xu (1989) によって新属新種として記載された種で、今回の記録が日本初記録となる。中国でも他の地方からの記録のない稀産種である。微小なクモなので、もともと日本、中国に生息しているながら見つからなかったものかも知れない。

ジャバラハエトリグモ属の1種は今後の研究に待たねばならない。日本のハエトリグモ科には、このような未記載あるいは未記録の種がいくつか残っており、現在若手の研究者によって分類学的研究が進展しつつある。

6. 将来の課題

将来を占うのは早計かもしれないが、皇居がそのまま都心に孤立した状態で推移すると、デリケートな種は加速度的に絶滅し、逆に移動力のあるクモの種数は増えていき、偏りのある形のままかつての自然の常緑樹林のクモ類相に近づくのではないかと予想される。前にも述べたように（小野, 2005）、現在都心となっている土地は数100年にわたって使途が有効利用してきた歴史があり、木材を燃料としていた江戸時代にはすでに完全に市街化していたものと考えられる。その中の緑地の現況は明治維新以後に整備された人造林であるので、むしろ人が手を加えて造園学の上からも理想的な森や庭園の保全を行なったほうがよいと考える。

そのためには、皇居では、1) 濠などの止水系の水環境を改善し、一部の周辺の護岸を湿地へと転換し、もともとの地に生えていた湿生植物を移植する（人が歩ける木道も整備する）、2) 極相になった林の中に良好な草地を作り昆虫がよく訪れる花の咲く植物を植栽する（ただし、御苑内の景観を優先することはもちろんのことである）、3) 堆肥やタヌキ（ほかの哺乳類の放飼も視野に）の糞などを工夫して、双翅類などの小昆虫の発生を促進させる（ただし公衆衛生上の問題を克服する必要がある）など造園技術を駆使して「クモに優しいビオトープ」を増やすことを推奨する。なぜかと言うと、クモ類の生存はじつは昆虫類の多様

性と個体数に依存しており、また豊かな昆虫相は豊かな土壌と植物の多様性の上に成り立つからである。言い換えると、クモのように生態系の高次に位置する動物が増えることは、その餌である昆虫類の多様性や昆虫類の餌となる植物の多様性を促し、さらにクモを餌とする鳥類や両生・爬虫類にもよい影響を与えるなど生態系全体の回復を促進することを意味する。一方で、セアカゴケグモ（小野, 2002）などの特定外来生物に指定されている種が侵入しないように常に調査を怠らならないことが必要である。

謝 辞

本研究を行うにあたり、クモ類の採集、標本整理、描画などに多方面にわたってご協力いただいた国立科学博物館の工藤泰恵、水山栄子、渡邊芳美、初芝涼、大和田守の各氏に心から御礼申し上げます。また、宮内庁庭園課の方々には調査の実施に際して懇切なご案内をいただいた。厚くお礼申し上げます。

文 献

- 青木淳一ほか8名, 1976. 皇居および常陸宮邸の土壌動物. *Edaphologia*, (14): 25–44.
- 久居宣夫, 2004. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録 (14). 自然教育園報告, (35): 1–13.
- 久居宣夫, 2005. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録 (15). 自然教育園報告, (36): 21–29.
- 久居宣夫, 2007a. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録 (17). 自然教育園報告, (38): 1–18.
- 久居宣夫編, 2007b. 自然教育園動物目録. v + 105 頁. 国立科学博物館附属自然教育園, 東京.
- 環境省, 2012. 第4次レッドリストの公表について (2012年8月28日). アクセス: 2013年10月1日; <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15619>
- 葛飾区, 2013. 葛飾区生きものガイドブック. 199 pp. 東京都葛飾区. (未見)
- 葛飾区建築環境部環境課 (編), 1992. 葛飾の昆虫・クモ. 152 pp. 東京都葛飾区.
- 近田文弘・秋山忍・門田裕一, 2000. 皇居吹上御苑の維管束植物. 国立科学博物館専報, (34): 7–43.
- 大野正男, 1976. 都市環境下におけるクモ類. 特

- にジョロウグモの分布. 沼田真編: 都市生態系の構造と動態に関する研究, pp. 135–154. 文部省.
- Ono, H., 2001. Notes on three species of trapdoor spiders (Araneae, Liphistiidae and Ctenizidae) from Japan. *Bulletin of the National Science Museum, Tokyo, Series A (Zoology)*, 27: 151–157.
- Ono, H., 2007. Eight new spiders of the families Hahniidae, Theridiidae, Linyphiidae and Anapidae (Arachnida, Araneae) from Japan. *Bulletin of the National Science Museum, Tokyo, (A)*, 33: 153–174.
- Ono, H., 2010. Spiders from Mikurajima Island, Tokyo, with descriptions of new genera and species of the families Linyphiidae and Theridiidae (Arachnida, Araneae). *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, (A)*, 36: 51–63.
- Ono, H., 2011. New spiders of the families Tetragnathidae, Nephilidae and Clubionidae (Arachnida, Araneae) from Izu and Ogasawara Islands, Tokyo. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, (A)*, 37: 15–26.
- 小野展嗣, 1988. くも綱くも目. 朝比奈正二郎: 皇居内濠池水生昆虫等調査報告, pp. 15–17. [宮内庁庭園課, 未刊]
- 小野展嗣, 2000. 皇居の庭園と濠のクモ. 国立科学博物館専報, (35): 127–145.
- 小野展嗣, 2001 a. 自然教育園のクモ相. 国立科学博物館ニュース, (385): 10–11.
- 小野展嗣, 2001 b. 東京の都心に網を張るクモ. 皇居・吹上御苑の生き物, pp. 188–195. 世界文化社, 東京.
- 小野展嗣, 2001 c. 日本のクモ学史資料 (7). シモンが記載したムルロッターの名を冠したクモ. *Orthobula's Box*, (9): 3–6.
- 小野展嗣, 2001 d. 伊豆諸島のクモ類. 国立科学博物館専報, (37): 261–277.
- 小野展嗣, 2002. クモ学. 摩訶不思議な八本足の世界. xiii+224pp. 東海大学出版会, 東京.
- 小野展嗣, 2003. 皇居のクモの四季. 国立科学博物館ニュース, (416): 10–11.
- 小野展嗣, 2005. 赤坂御用地 (東京都港区) の庭園のクモ. 国立科学博物館専報, (39): 439–453.
- 小野展嗣, 2006 a. 相模灘沿岸地域の海浜性クモ類. 国立科学博物館専報, (42): 255–274.
- 小野展嗣, 2006 b. 皇居の庭園と濠のクモ – モニタリング調査 (2001–2005) の結果. 国立科学博物館専報, (43): 407–418.
- 小野展嗣 (編著), 2009. 日本産クモ類. xvi + 738pp. 東海大学出版会, 神奈川.
- 小野展嗣, 2010. クモ類. 東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) (東京都レッドリスト 2010年版), pp. 101–103. 東京都環境局自然環境部.
- 小野展嗣, 2011. クモ類. 東京都の保護上重要な野生生物種 (島しょ部) (東京都レッドリスト 2011年版), pp. 85–89. 東京都環境局自然環境部.
- 小野展嗣, 2012. ワスレナグモ. 代々木 (明治神宮発行), 平成24年春号, 53(2): 22.
- 小野展嗣, 2013 a. 白金の森のクモ. 濱尾章二・松浦啓一編: 大都会に息づく照葉樹の森, pp. 86–91. 東海大学出版会, 神奈川.
- 小野展嗣, 2013 b. クモ類. 東京都環境局自然環境部編: レッドデータブック東京2013. 東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版, pp. 586–598. 東京都環境局自然環境部.
- 小野展嗣, 2013c. 明治神宮の森と庭園のクモ類. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書, pp. 384–415. 明治神宮社務所, 東京.
- 小野展嗣・水山栄子, 2001. 上野公園のクモ類 (第1報). *Kishidaia*, (81): 43–51.
- 小野展嗣・新海栄一, 2001. 自然教育園のクモ類. 自然教育園報告, (33): 173–200.
- 小野展嗣・新海栄一, 2005. 常盤松御用邸 (東京都渋谷区) の庭園のクモ. 国立科学博物館専報, (39): 455–465.
- 新海栄一, 1977. 皇居内の土壌性クモ類. *Edaphologica*, (16): 26–34, pl.1.
- 新海栄一, 1978. 生物環境研究会報告, V. 八王子市のクモ, 1. リストおよび分布. 日本私学教育研究所調査資料, (56): 79–109, 1–17 図版.
- 新海栄一, 1986. 板橋区の真正クモ類. 板橋区役所土木部公園緑地課編: 板橋区昆虫類等実態調査, pp. 134–148. 東京都板橋区.
- 新海栄一, 1998. クモ類による環境の評価. *Kishidaia*, 74: 33–100.
- 荘司康治郎, 2013. 石神井公園のクモ. アクセス: 2013年9月1日. <http://www.geocities.jp/kidoban>

298/

Song, D.-X. & Y.-J. Xu, 1989. A new genus and new species of the family Dictynidae from China. *Acta Zootaxonomica Sinica*, 14: 288–292.

杉並区役所, 2013. 杉並区自然環境調査, クモ類. アクセス : 2013年9月1日 http://www.kankyomap.city.suginami.tokyo.jp/nature/research/research_s.html

梅林 力, 1978. 杉並区の真正クモ類と自然環境 (1). 環境教育研究, 1(1): 25–36.

梅林 力, 2003. クモ類. 杉並区環境清掃部環境課編 : 杉並区自然環境調査報告書 (第4次), pp. 37–58. 東京都杉並区.

梅林 力, 2008. クモ類. 杉並区環境清掃部環境課編 : 杉並区自然環境調査報告書 (第5次), pp. 41–65. 東京都杉並区.